

令和2年度市民アンケート調査 結果報告書

令和3年2月

盛岡市

目 次

I	事業の概要	1
II	調査結果と考察	
テーマ1	市の情報発信について	
問1	広報紙を読む頻度	3
問2	広報紙を読む範囲	5
問3	広報紙に対する満足度	8
問4	情報を得るために利用している媒体	11
問5	力を入れてほしい情報発信の方法	15
問6	力を入れてほしい話題	17
テーマ2	防災対策について	
問7	災害情報等を得る手段	20
問8	整備・拡充してほしい情報入手手段	23
問9	自宅等で備蓄しているもの	26
問10	避難所に配備してほしい物資	28
問11	ハザードマップや避難ルートの把握	30
問12	自主防災組織で行う防災訓練への参加	32
問13	市が実施する総合防災訓練等への参加	34
テーマ3	こころの健康づくりについて	
問14	悩みを相談できるところ	36
問15	悩みを相談できる相手	39
問16	悩んでいる人からの相談	41
問17	悩みを相談されたときの対応	43
問18	希死念慮の訴え	45
問19	こころの健康づくりに有効な手段	47
問20	自粛生活期間のストレス	50
問21	ストレスへの対処法	52
テーマ4	地域の歴史・歴史遺産について	
問22	守るべき文化財や歴史遺産	54
問23	守り受け継ぐために必要な取組	57
問24	文化財や歴史遺産を残すための課題	60
問25	伝えていきたい行事やお祭り	64
問26	伝えていくために必要な取組	66
問27	行事やお祭りを継続させるための課題	69

I 事業の概要

1 事業の目的

市民アンケート調査は、市政に対する市民の考えや意見を把握し、調査結果を施策検討の際の基礎資料として活用することにより、「市民参画や協働によるまちづくり」を図るため毎年実施しています。

2 事業テーマ

(1) 市の情報発信について	(担当：市長公室広聴広報課)	6問
(2) 防災対策について	(担当：総務部危機管理防災課)	7問
(3) こころの健康づくりについて	(担当：保健所保健予防課)	8問
(4) 地域の歴史・歴史遺産について	(担当：教育委員会事務局歴史文化課)	6問

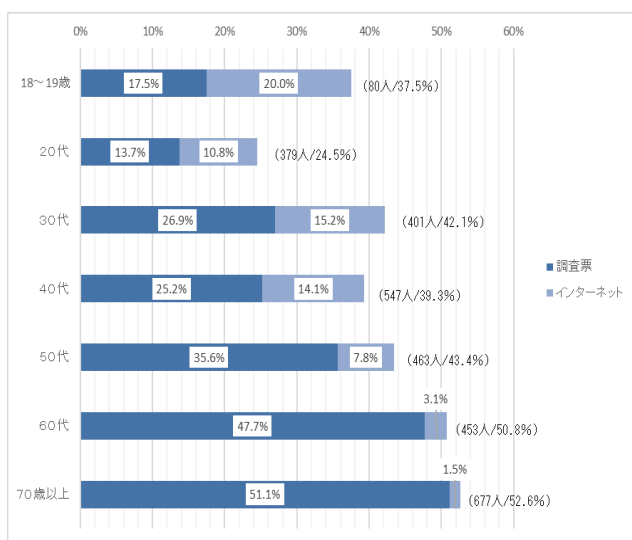
3 事業の設計

(1) 実施方法	アンケート方式による調査
(2) 調査地域	盛岡市全域
(3) 調査対象者	満18歳以上の市民
(4) 標本数	3,000人
(5) 抽出方法	住民票ファイル（令和2年6月30日）から無作為抽出
(6) 調査方法	郵送による配布・回収（インターネット回答を併用）
(7) 調査期間	令和2年8月17日～8月31日

4 調査の回収結果

(1) 対象者数	3,000人
(2) 有効回収数	1,294人
(3) 有効回収率	43.1%

【年代別回収率と回答媒体の内訳】



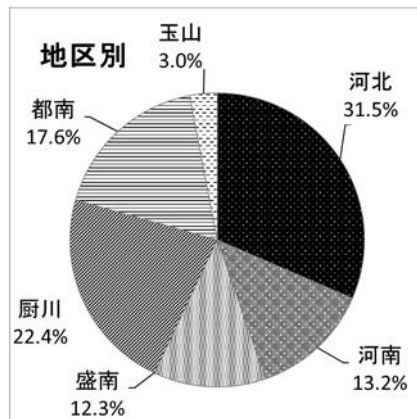
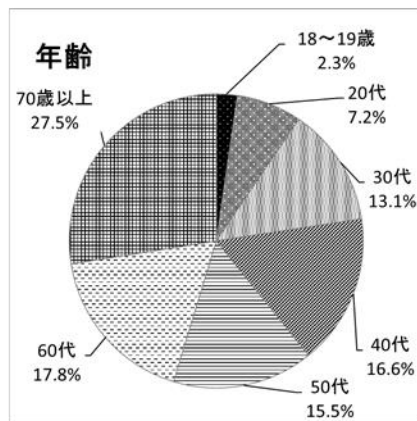
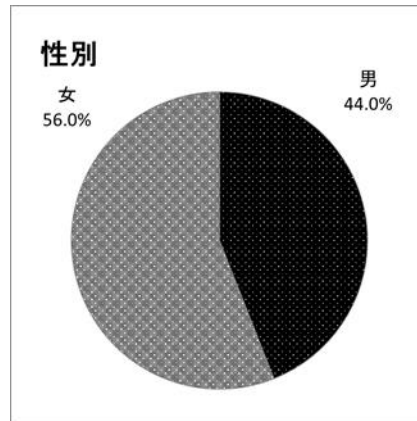
有効回収数 1,294人のうち、
インターネットでの回答…… 255人
調査票での回答………1,039人

全体の有効回収率は令和元年度実施の同調査の39.9%より3.2ポイント高くなった。
インターネットでの回答率は19.7%で、同調査の13.7%より6.0ポイント高くなった。
インターネット回答導入の効果が現れていると言える。

() 内の数は、その年代の対象者の人数及び回答率

5 調査回答者の内訳

区分	実数 (人)
全 体	1,294
【性別】	
男 性	569
女 性	725
【年代別】	
18 歳 ~ 19 歳	30
20 歳 ~ 29 歳	93
30 歳 ~ 39 歳	169
40 歳 ~ 49 歳	215
50 歳 ~ 59 歳	201
60 歳 ~ 69 歳	230
70 歳 以 上	356
【地区別】	
河 北	407
河 南	171
盛 南	159
厨 川	290
都 南	228
玉 山	39



【地区別】の区分について

現行のコミュニティ区分を基本単位とし、市域を次の6地区に区分しています。

1	河北	桜城, 仁王, 上田, 緑が丘, 松園, 山岸, 上米内
2	河南	城南, 加賀野, 中野, 杜陵, 大慈寺, 築川
3	盛南	仙北, 本宮, 太田, 繫
4	厨川	西厨川, 土淵, 東厨川, 青山, みたけ, 北厨川
5	都南	見前, 飯岡, 乙部
6	玉山	好摩, 卷堀姫神, 渋民, 玉山藪川

6 留意事項について

- (1) 比率はすべて百分率で表示し、小数点第2位を四捨五入して算出しました。したがって、合計が100.0%とならない場合があります。
- (2) 複数回答を求める設問では、その回答の数値は延べ回答数に対する百分率ではなく回答者数を100とした場合の百分率です。したがって、合計は100.0%を超えることがあります。
- (3) 「N」は、その設問の回答者の実数で、比率算出の基礎になります。
- (4) 年代別の傾向分析にあたっては、18歳~19歳の回答者が30人と少ないため、20代と合わせた数値を使っています。

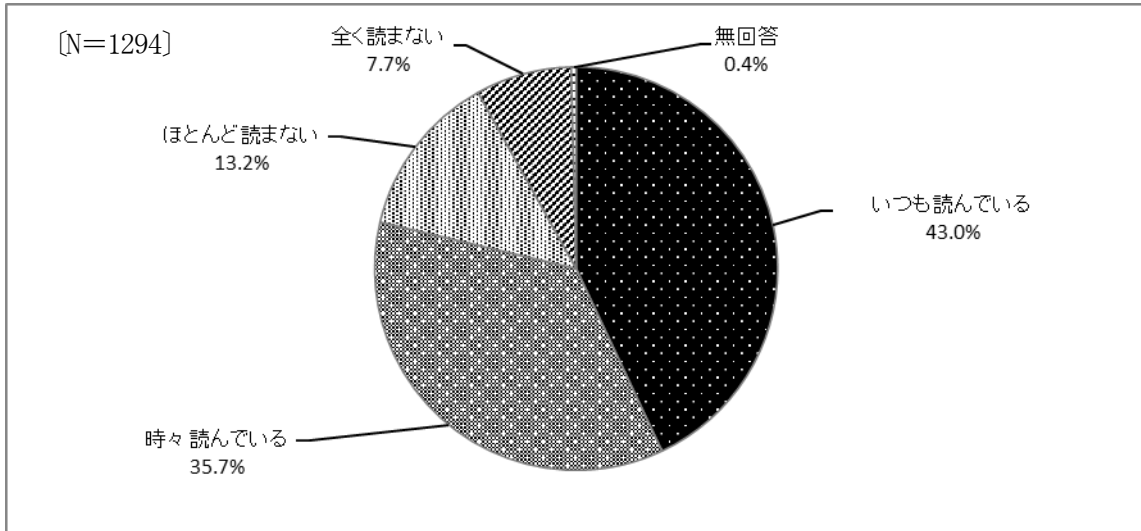
Ⅱ 調査結果と考察

《テーマ1 市の情報発信について》

問1 あなたは、広報もりおかを毎回読んでいますか。当てはまるもの1つに○を付けてください。

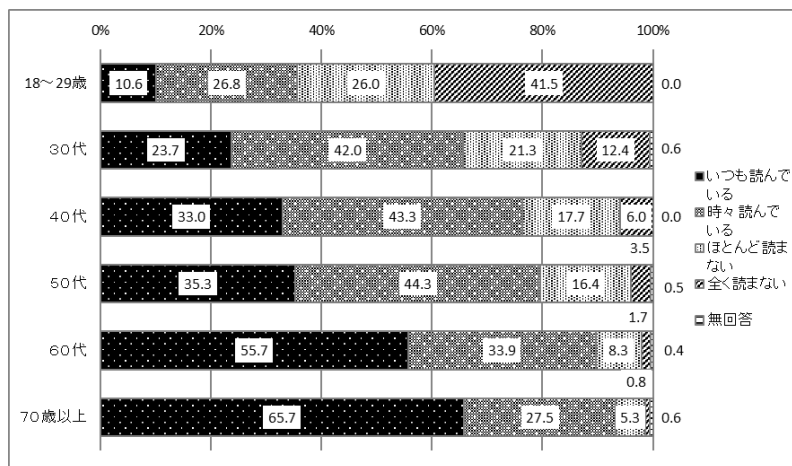
- | | |
|------------|------------|
| 1 いつも読んでいる | 3 ほとんど読まない |
| 2 時々読んでいる | 4 全く読まない |

【全体】



「いつも読んでいる」と回答する人が最も多く、「時々読んでいる」と回答した人と合わせると、約8割(78.7%)の人が広報を読んでおり、市政情報紙として認知されているものと考えられる。

【年代別】

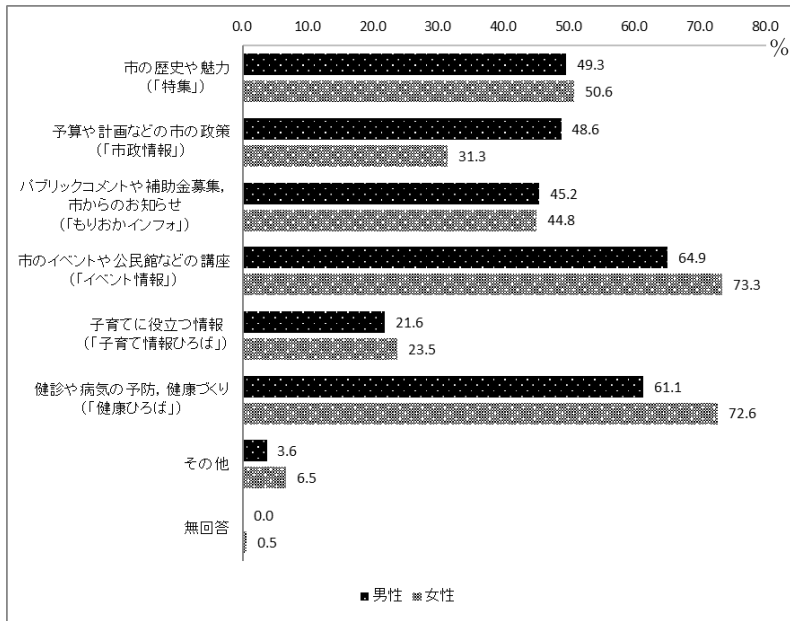


年代が上がるほど、「いつも読んでいる」「時々読んでいる」と回答する割合が高い。また、「いつも読んでいる」の割合が、40代で33.0%、50代で35.3%と3割程度であるのに対し、60代になると55.7%と一気に高くなる。これは、健康に関する情報や講座等への関心の高まり等の理由によると考えられる。一方で、18~29歳では「ほとんど読まない」「全く読まない」の割合がかなり高く(67.5%、前回調査59.4%)になっており、情報源や入手方法の多様化が一層進んでいることによるものと考えられる。

【性別、年代別、地区別の回答数】

		実数 (人)	いつも 読んでいる	時々 読んでいる	ほとんど 読まない	全く 読まない	無 回答
全体		1294	557	462	171	99	5
性別	男	569	215	201	89	63	1
	女	725	342	261	82	36	4
年代	18～19 歳	30	0	2	8	20	0
	20～29 歳	93	13	31	18	31	0
	30～39 歳	169	40	71	36	21	1
	40～49 歳	215	71	93	38	13	0
	50～59 歳	201	71	89	33	7	1
	60～69 歳	230	128	78	19	4	1
	70 歳以上	356	234	98	19	3	2
地区	河北	407	183	150	47	27	0
	河南	171	68	66	24	13	0
	盛南	159	71	50	28	9	1
	厨川	290	124	104	40	21	1
	都南	228	98	77	28	25	0
	玉山	39	13	15	4	4	3

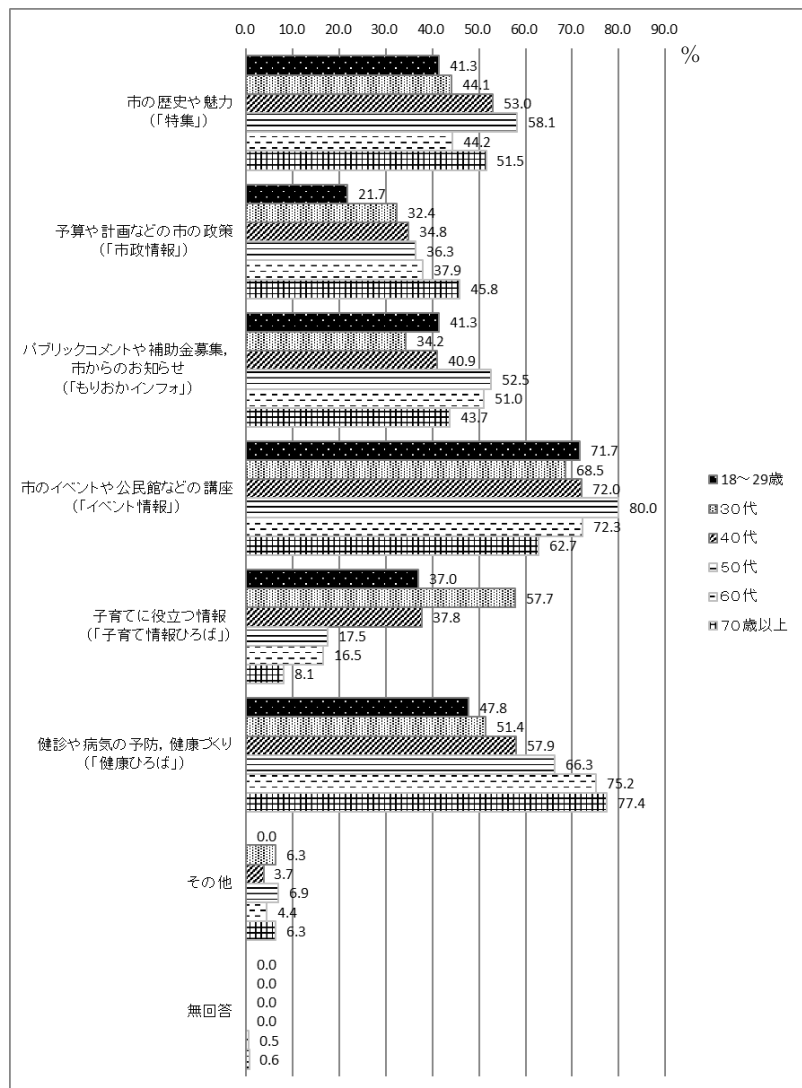
【性別】



「予算や計画などの市の政策『市政情報』と回答した男性は女性より多く、「市のイベントや公民館などの講座『イベント情報』」「健診や病気の予防, 健康づくり『健康ひろば』」と回答した女性は男性より高かったことから、性別による関心の傾向がうかがえる。

【年代別】

「市のイベントや公民館などの講座『イベント情報』」は全ての年代で関心が高く、「健診や病気の子防, 健康づくり『健康ひろば』」は年代が高くなるにつれ、関心が高くなっている。「子育てに役立つ情報『子育て情報ひろば』」は20～40代の関心が高い。



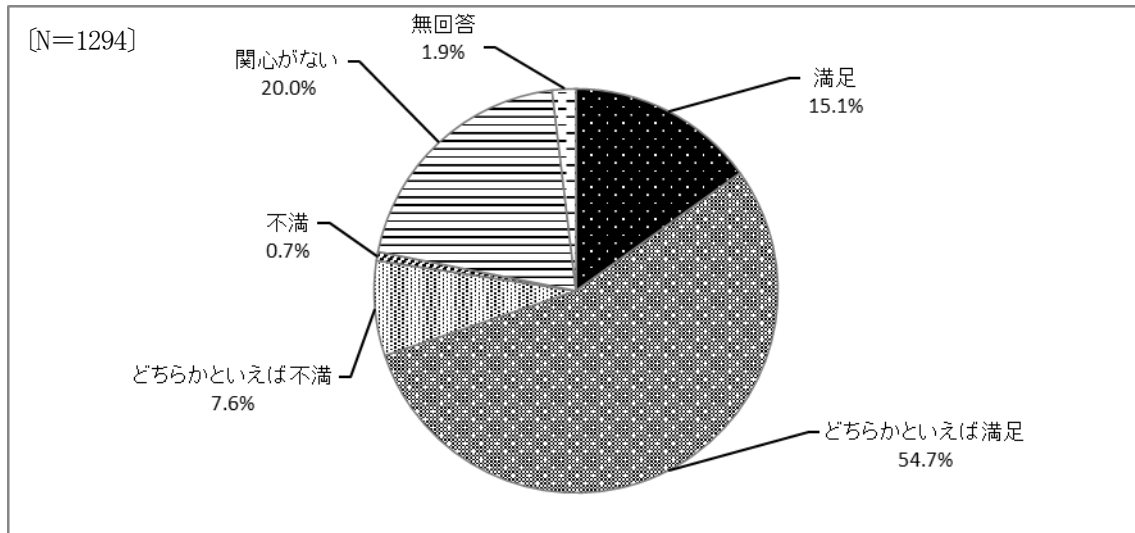
【性別、年代別、地区別の回答数】

		実数 (人)	市の歴史や魅力「特集」	予算や計画など市の政策「市政情報」	パブリックコメントや補助金募集、 市からのお知らせ「もりおかインフォ」	市のイベントや公民館などの講座 「イベント情報」	子育てに役立つ情報「子育て情報ひろば」	健診や病気の予防、健康づくり 「健康ひろば」	その他	無回答
全体		1019	510	391	458	712	232	692	54	3
性別	男	416	205	202	188	270	90	254	15	0
	女	603	305	189	270	442	142	438	39	3
年代	18～19歳	2	1	0	0	2	0	0	0	0
	20～29歳	44	18	10	19	31	17	22	0	0
	30～39歳	111	49	36	38	76	64	57	7	0
	40～49歳	164	87	57	67	118	62	95	6	0
	50～59歳	160	93	58	84	128	28	106	11	0
	60～69歳	206	91	78	105	149	34	155	9	1
70歳以上	332	171	152	145	208	27	257	21	2	
地区	河北	333	168	130	142	229	64	230	12	0
	河南	134	71	59	71	92	32	84	6	1
	盛南	121	62	39	60	87	31	88	8	0
	厨川	228	119	87	102	162	60	170	13	1
	都南	175	76	68	73	128	42	104	10	1
	玉山	28	14	8	10	14	3	16	5	0

問3 あなたは、広報もりおかの記事に満足していますか。当てはまるもの1つに○を付けてください。

- | | |
|--------------|---------|
| 1 満足 | 4 不満 |
| 2 どちらかといえば満足 | 5 関心がない |
| 3 どちらかといえば不満 | |

【全体】

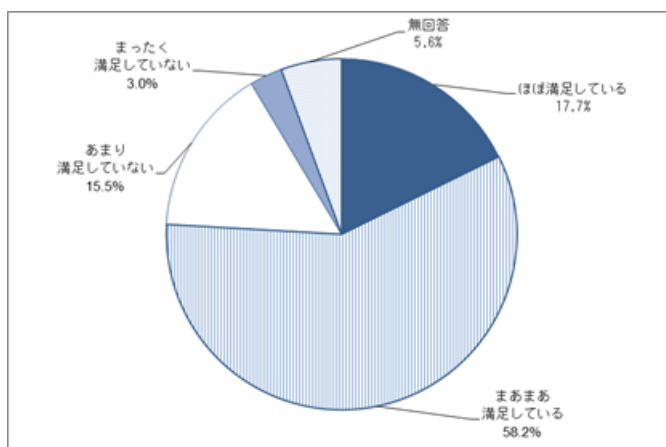


「満足」「どちらかといえば満足」の割合は69.8%と、「不満」「どちらかといえば不満」の8.3%を大きく上回っている。

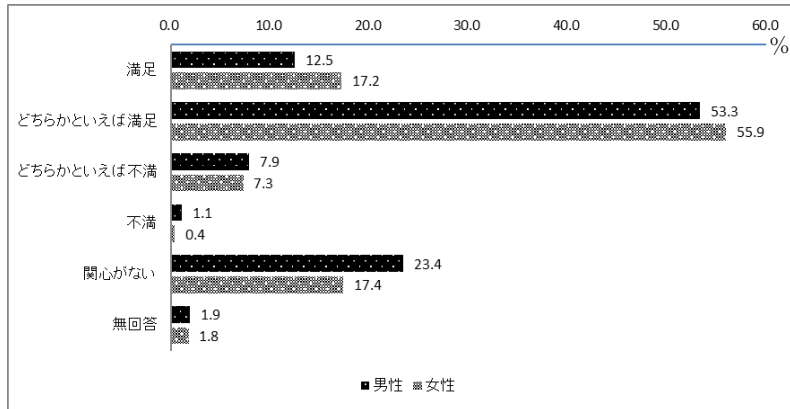
一方で、今回から選択肢に加えた「関心がない」が若い世代を中心に20%もいることが分かった。広報紙、そして市政に関心を持ってもらえるような紙面づくりを進めていくとともに、SNS等による情報提供も進めていく必要がある。

【参考】

第22回市民意識調査（平成29年度）類似設問の結果

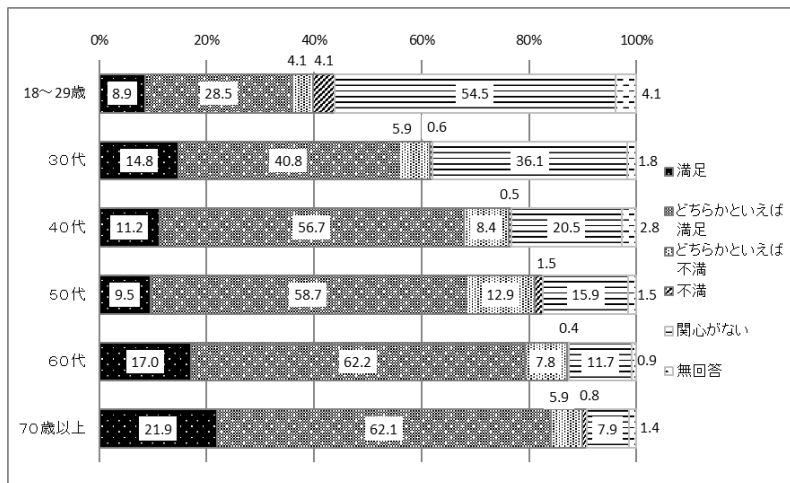


【性別】



「満足」「どちらかといえば満足」は、女性の率が高く（女性 73.1%、男性 65.8%）、「関心がない」は、男性の率が高い（男性 23.4%、女性 17.4%）。

【年代別】



年代が上がるにつれ「満足」「どちらかといえば満足」の割合が増え、広報をよく読んでいる高齢者ほど、記事の内容にも満足していることがうかがえる。一方で、「関心がない」の割合は18～29歳で54.5%、30代で36.1%と、記事そのものに関心がない若い年代が多いことが分かった。このことから、若い年代に興味を持ってもらえるような紙面づくり、年代に合わせた情報媒体の選択等の取組が必要と考えられる。

【性別、年代別、地区別の回答数】

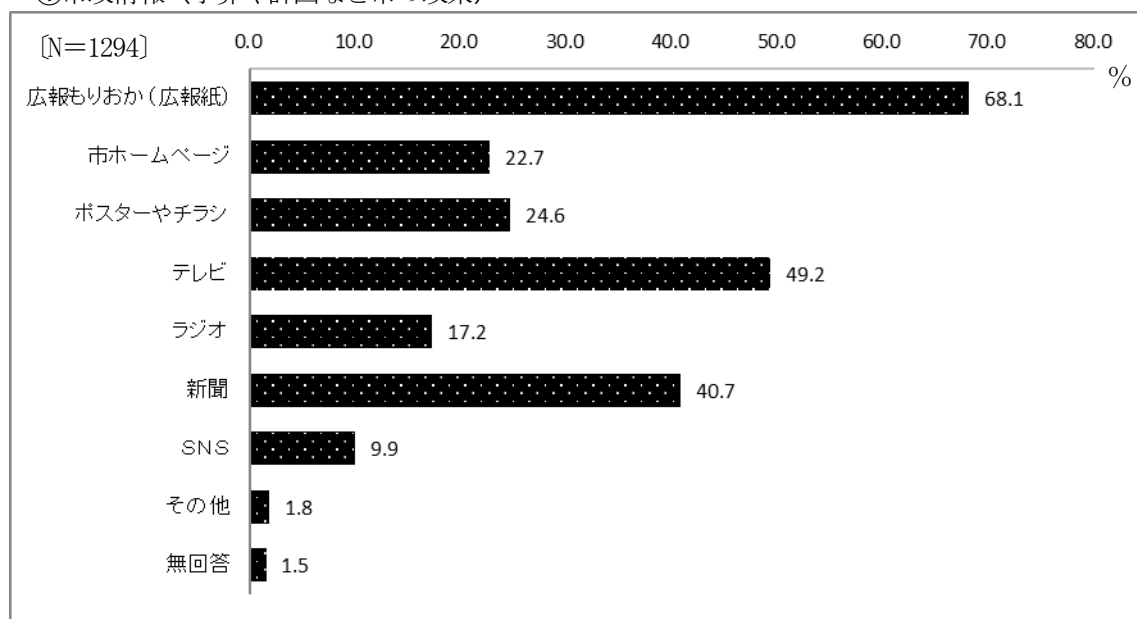
		実数 (人)	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	関心がない	無回答
全体		1294	196	708	98	9	259	24
性別	男	416	205	202	188	270	90	0
	女	603	305	189	270	442	142	3
年代	18～19歳	30	1	3	0	0	24	2
	20～29歳	93	10	32	5	0	43	3
	30～39歳	169	25	69	10	1	61	3
	40～49歳	215	24	122	18	1	44	6
	50～59歳	201	19	118	26	3	32	3
	60～69歳	230	39	143	18	1	27	2
	70歳以上	356	78	221	21	3	28	5
地区	河北	407	54	239	28	3	77	6
	河南	171	32	91	10	1	37	0
	盛南	159	29	84	14	3	25	4
	厨川	290	51	148	24	0	63	4
	都南	228	26	127	19	1	48	7
	玉山	39	4	19	3	1	9	3

問4 あなたが、市政情報や市のイベント情報を得る際に利用している媒体は何ですか。当てはまるもの全てに○を付けてください。

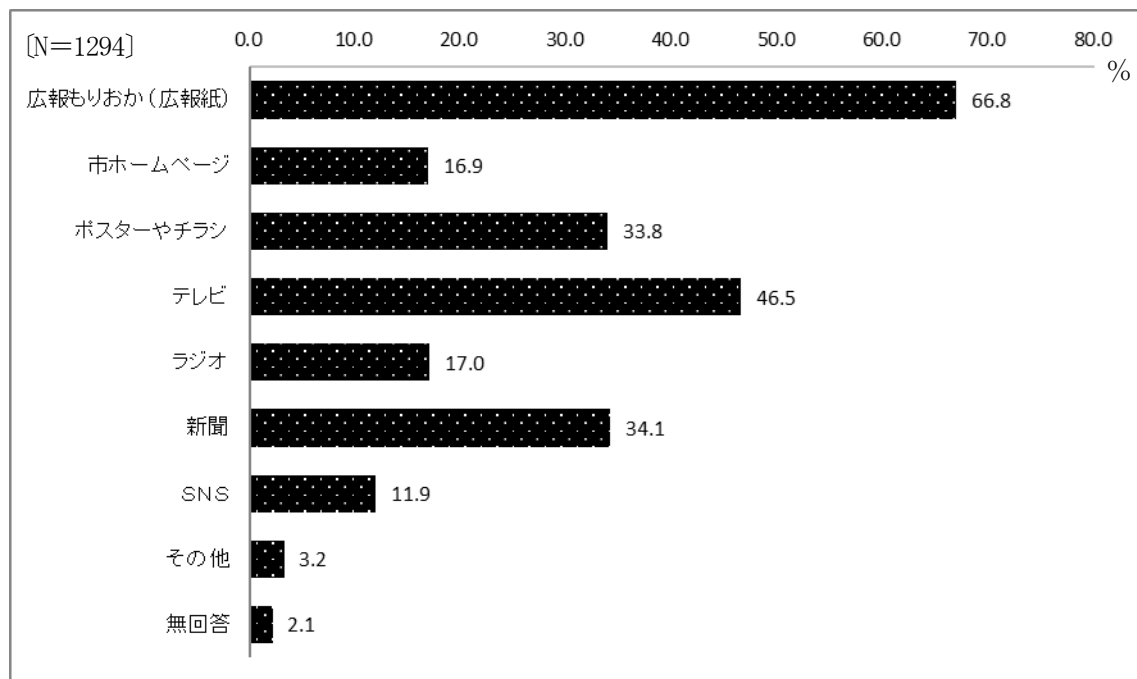
- | | |
|---------------|----------|
| 1 広報もりおか（広報紙） | 5 ラジオ |
| 2 市ホームページ | 6 新聞 |
| 3 ポスターやチラシ | 7 SNS |
| 4 テレビ | 8 その他（ ） |

【全体】

①市政情報（予算や計画など市の政策）



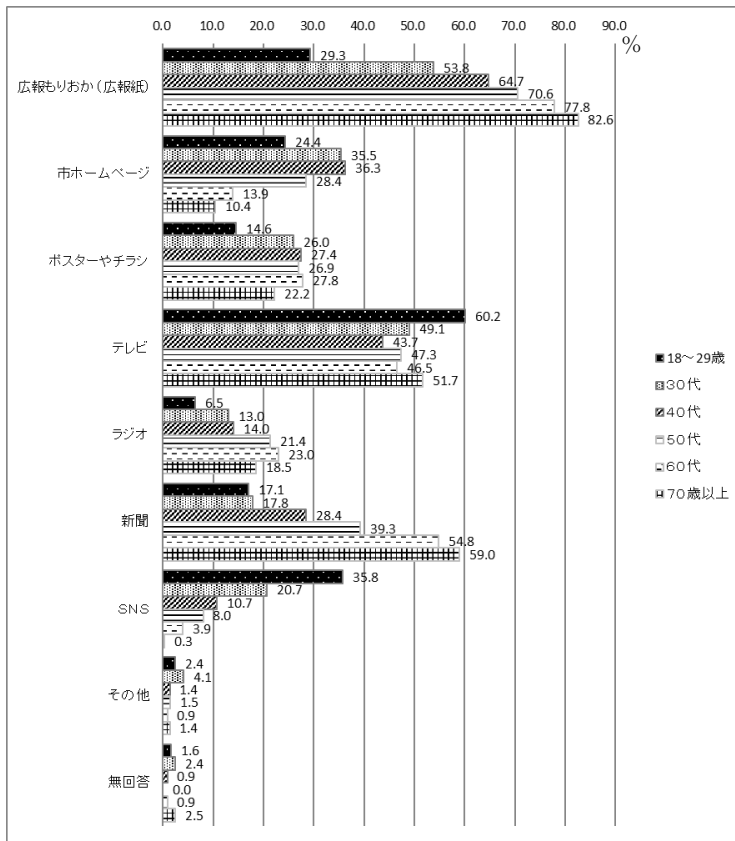
②イベント情報（市のイベントや公民館などの講座）



「市政情報」「市のイベント」とも、広報紙で情報を得る人が最も多く、次いで「テレビ」「新聞」と続いている。また、「市のイベント」に関しては「ポスターやチラシ」も次いで高く、市の施設などへの掲示物等により情報を得ている人も多いと考えられる。

【年代別】

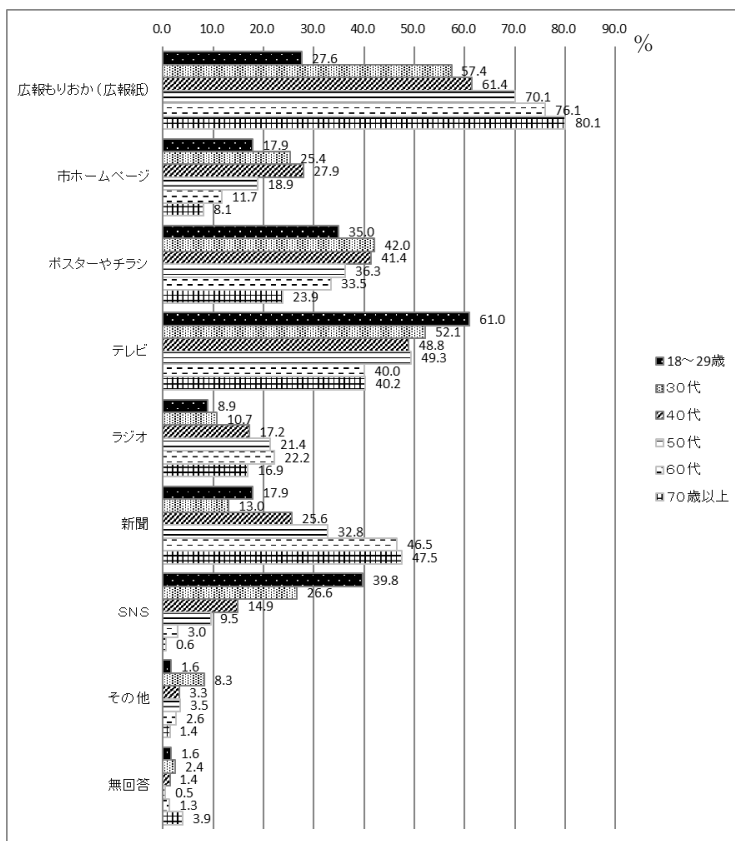
①市政情報（予算や計画など市の政策）



年代が高くなるほど「広報紙」と「新聞」で情報を得ている割合が増えている。

18~29歳は「テレビ」「SNS」で、30代・40代は「テレビ」「ホームページ」でそれぞれ情報を得ていることから、年代に合わせた広報媒体の選択が必要であることが考えられる。

②イベント情報（市のイベントや公民館などの講座）



【性別、年代別、地区別の回答数】

①市政情報（予算や計画など市の政策）

		実数 (人)	広報もりおか (広報紙)	市ホームページ	ポスターやチラシ	テレビ	ラジオ	新聞	SNS	その他	無回答
全体		1294	881	294	318	637	222	527	128	23	19
性別	男	569	348	166	138	262	104	221	61	10	6
	女	725	533	128	180	375	118	306	67	13	13
年代	18～19歳	30	2	5	5	21	2	6	11	2	1
	20～29歳	93	34	25	13	53	6	15	33	1	1
	30～39歳	169	91	60	44	83	22	30	35	7	4
	40～49歳	215	139	78	59	94	30	61	23	3	2
	50～59歳	201	142	57	54	95	43	79	16	3	0
	60～69歳	230	179	32	64	107	53	126	9	2	2
	70歳以上	356	294	37	79	184	66	210	1	5	9
地区	河北	407	284	99	110	195	65	168	40	2	4
	河南	171	116	47	41	84	23	76	16	1	1
	盛南	159	101	33	35	72	30	70	14	2	4
	厨川	290	203	59	62	147	48	123	32	12	4
	都南	228	150	48	58	122	46	81	23	3	4
	玉山	39	27	8	12	17	10	9	3	3	2

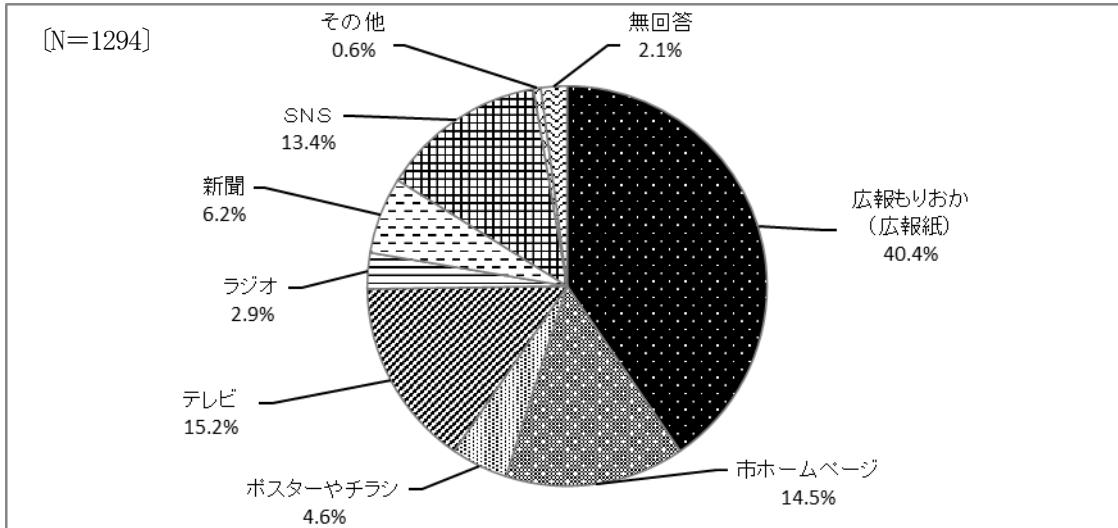
②イベント情報（市のイベントや公民館などの講座）

		実数（人）	広報もりおか（広報紙）	市ホームページ	ポスターやチラシ	テレビ	ラジオ	新聞	SNS	その他	無回答
全体		1294	864	219	438	602	220	441	154	41	27
性別	男	569	344	117	190	256	101	201	75	20	8
	女	725	520	102	248	346	119	240	79	21	19
年代	18～19歳	30	2	2	12	22	1	6	10	1	1
	20～29歳	93	32	20	31	53	10	16	39	1	1
	30～39歳	169	97	43	71	88	18	22	45	14	4
	40～49歳	215	132	60	89	105	37	55	32	7	3
	50～59歳	201	141	38	73	99	43	66	19	7	1
	60～69歳	230	175	27	77	92	51	107	7	6	3
	70歳以上	356	285	29	85	143	60	169	2	5	14
地区	河北	407	277	74	142	193	64	150	51	4	7
	河南	171	110	38	62	76	22	63	25	6	1
	盛南	159	103	24	58	68	33	57	22	6	6
	厨川	290	198	41	83	139	47	96	30	10	5
	都南	228	149	38	75	115	46	66	23	12	5
	玉山	39	27	4	18	11	8	9	3	3	3

問5 あなたが、今後特に力を入れてほしい情報発信の方法は何ですか。当てはまるもの1つに○を付けてください。

- | | |
|----------------|-----------|
| 1 広報もりおか (広報紙) | 5 ラジオ |
| 2 市ホームページ | 6 新聞 |
| 3 ポスターやチラシ | 7 SNS |
| 4 テレビ | 8 その他 () |

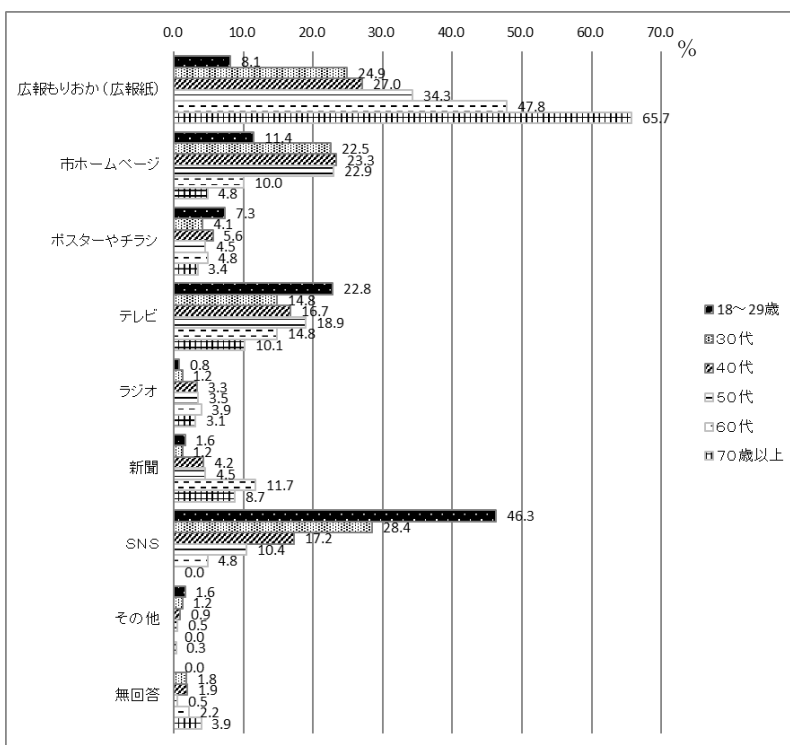
【全体】



「広報もりおか (広報紙)」の割合が40.4%と最も高いが、「テレビ」「ラジオ」「新聞」のマスメディアと回答した割合も合計で24.3%と高かったことから、広く市民に情報を伝えるためには、報道機関向けの情報提供の充実が必要であると考えられる。

次いで、「ホームページ」(14.5%)及び「SNS」(13.4%)の充実を求める回答が多く、特に「SNS」については、新たな媒体として期待している人が多いことが分かった。

【年代別】



年代が高くなるほど「広報もりおか (広報紙)」, 若い世代ほど「SNS」の充実を求めており、対象に合わせた広報媒体の選択が必要であることが分かった。

また、30代~40代の働く世代は、ほぼ同一の割合で広報紙とホームページの充実を求めており、両者の併用が効果的であると考えられる。

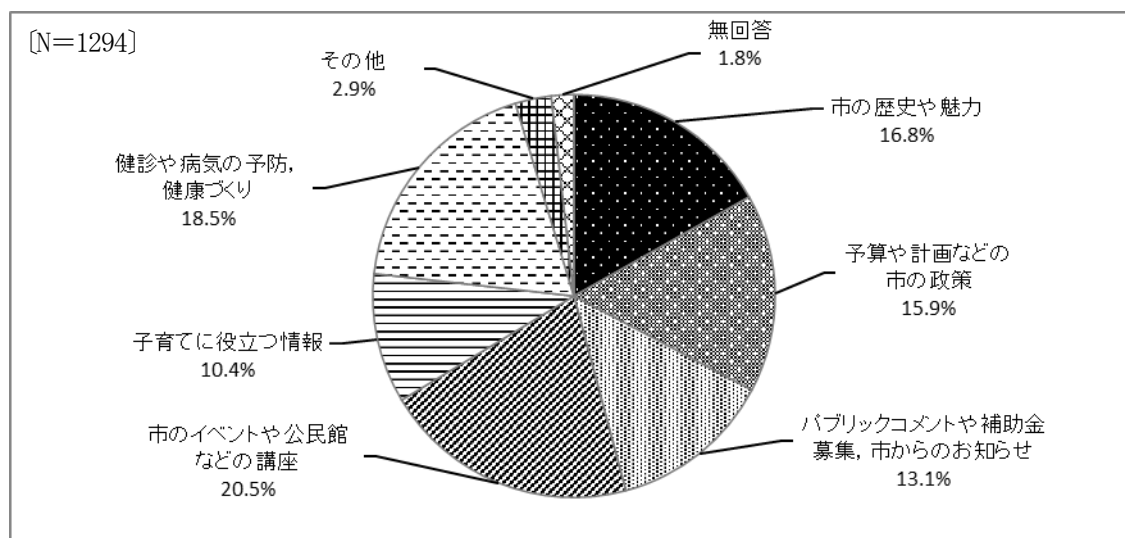
【性別、年代別、地区別の回答数】

		実数 (人)	広報 もりおか (広報紙)	市 ホーム ページ	ポ ス タ ー や チ ラ シ	テ レ ビ	ラ ジ オ	新 聞	S N S	そ の 他	無 回 答
全体		1294	523	188	60	197	37	80	174	8	27
性別	男	569	215	99	23	84	19	38	82	3	6
	女	725	308	89	37	113	18	42	92	5	21
年代	18～19歳	30	0	1	0	10	1	1	15	2	0
	20～29歳	93	10	13	9	18	0	1	42	0	0
	30～39歳	169	42	38	7	25	2	2	48	2	3
	40～49歳	215	58	50	12	36	7	9	37	2	4
	50～59歳	201	69	46	9	38	7	9	21	1	1
	60～69歳	230	110	23	11	34	9	27	11	0	5
	70歳以上	356	234	17	12	36	11	31	0	1	14
地区	河北	407	172	71	15	54	7	22	55	1	10
	河南	171	67	22	8	26	3	14	26	3	2
	盛南	159	68	23	9	22	6	10	17	0	4
	厨川	290	119	35	12	50	11	20	37	1	5
	都南	228	80	34	14	36	9	12	37	2	4
	玉山	39	17	3	2	9	1	2	2	1	2

問6 あなたが、今後情報発信に特に力を入れてほしい話題は何ですか。当てはまるもの1つに○を付けてください。

- 1 市の歴史や魅力
- 2 予算や計画など市の政策
- 3 パブリックコメントや補助金募集, 市からのお知らせ
- 4 市のイベントや公民館などの講座
- 5 子育てに役立つ情報
- 6 健診や病気の予防, 健康づくり
- 7 その他 ()

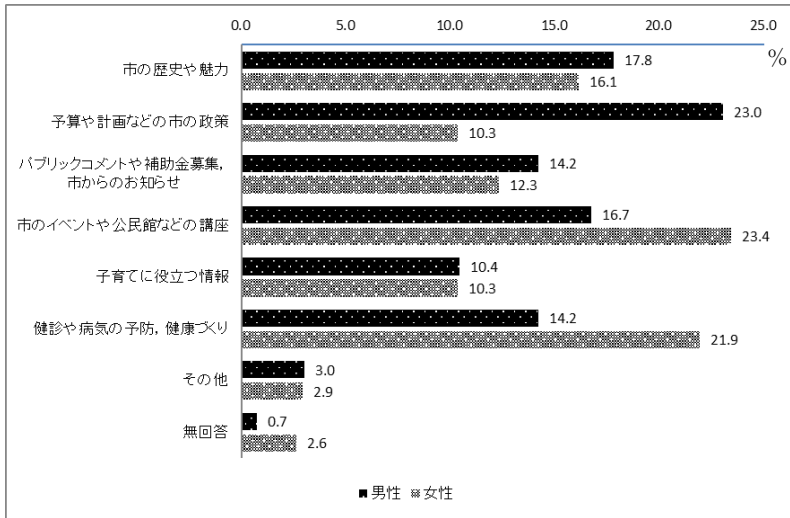
【全体】



「市のイベントや公民館などの講座」が20.5%、「健診や病気の予防, 健康づくり」が18.5%、「子育てに役立つ情報」を除くその他の選択肢も15%前後となっており、いずれの情報もまんべんなく求められているものと考えられる。

「子育てに役立つ情報」が10.4%と、他の選択肢と比べて割合が低くなっているが、これは対象者が限られているためと考えられる。

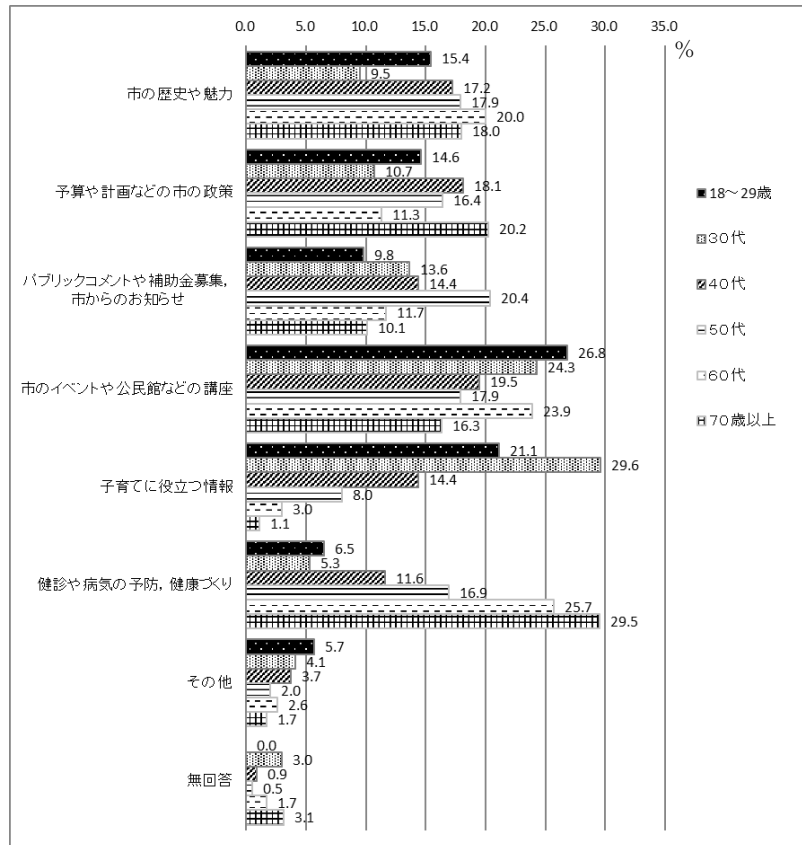
【性別】



「予算や計画などの市の政策」については、男性は女性の2倍以上の回答があり、「市のイベントや公民館などの講座」「健診や病気の予防, 健康づくり」については、女性の方が突出して回答が多かったことから、性別により興味・関心の傾向が大きく分かれていることが分かった。

【年代別】

「子育てに役立つ情報」は20～40代の関心が高い。「健診や病気の予防, 健康づくり」は年代が高くなるにつれ、関心が高くなっている。



【性別、年代別、地区別の回答数】

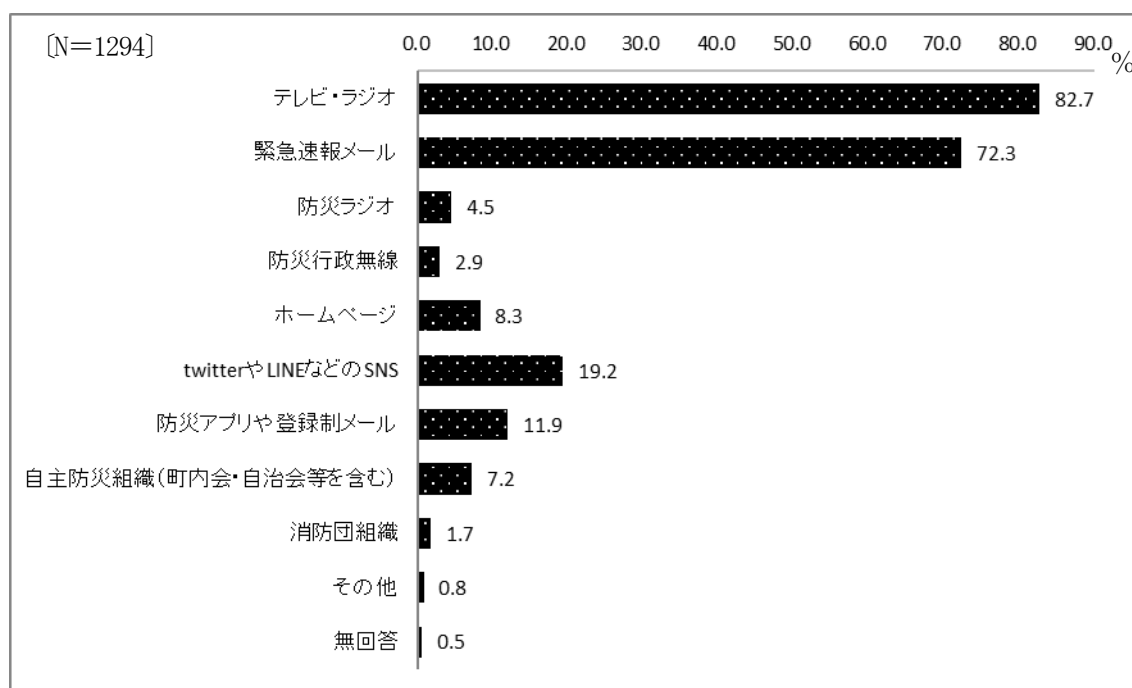
		実数（人）	市の歴史や魅力	予算や計画など市の政策	市からのお知らせ パブリックコメントや補助金募集、	市のイベントや公民館などの講座	子育てに役立つ情報	健診や病気の予防、健康づくり	その他	無回答
全体		1294	218	206	170	265	134	240	38	23
性別	男	569	101	131	81	95	59	81	17	4
	女	725	117	75	89	170	75	159	21	19
年代	18～19歳	30	5	6	2	11	1	1	4	0
	20～29歳	93	14	12	10	22	25	7	3	0
	30～39歳	169	16	18	23	41	50	9	7	5
	40～49歳	215	37	39	31	42	31	25	8	2
	50～59歳	201	36	33	41	36	16	34	4	1
	60～69歳	230	46	26	27	55	7	59	6	4
	70歳以上	356	64	72	36	58	4	105	6	11
地区	河北	407	64	62	50	88	43	83	10	7
	河南	171	35	40	20	30	12	26	7	1
	盛南	159	23	21	25	32	18	33	5	2
	厨川	290	55	43	35	60	32	50	9	6
	都南	228	36	33	38	47	27	36	6	5
	玉山	39	5	7	2	8	2	12	1	2

《テーマ2 防災対策について》

問7 あなたは、市からの災害発生情報や避難情報等を何から入手していますか。当てはまるもの全てに○を付けてください。

- | | |
|-----------|-----------------------|
| 1 テレビ・ラジオ | 6 twitter やLINEなどのSNS |
| 2 緊急速報メール | 7 防災アプリや登録制メール |
| 3 防災ラジオ | 8 自主防災組織（町内会・自治会等を含む） |
| 4 防災行政無線 | 9 消防団組織 |
| 5 ホームページ | 10 その他（ ） |

【全体】

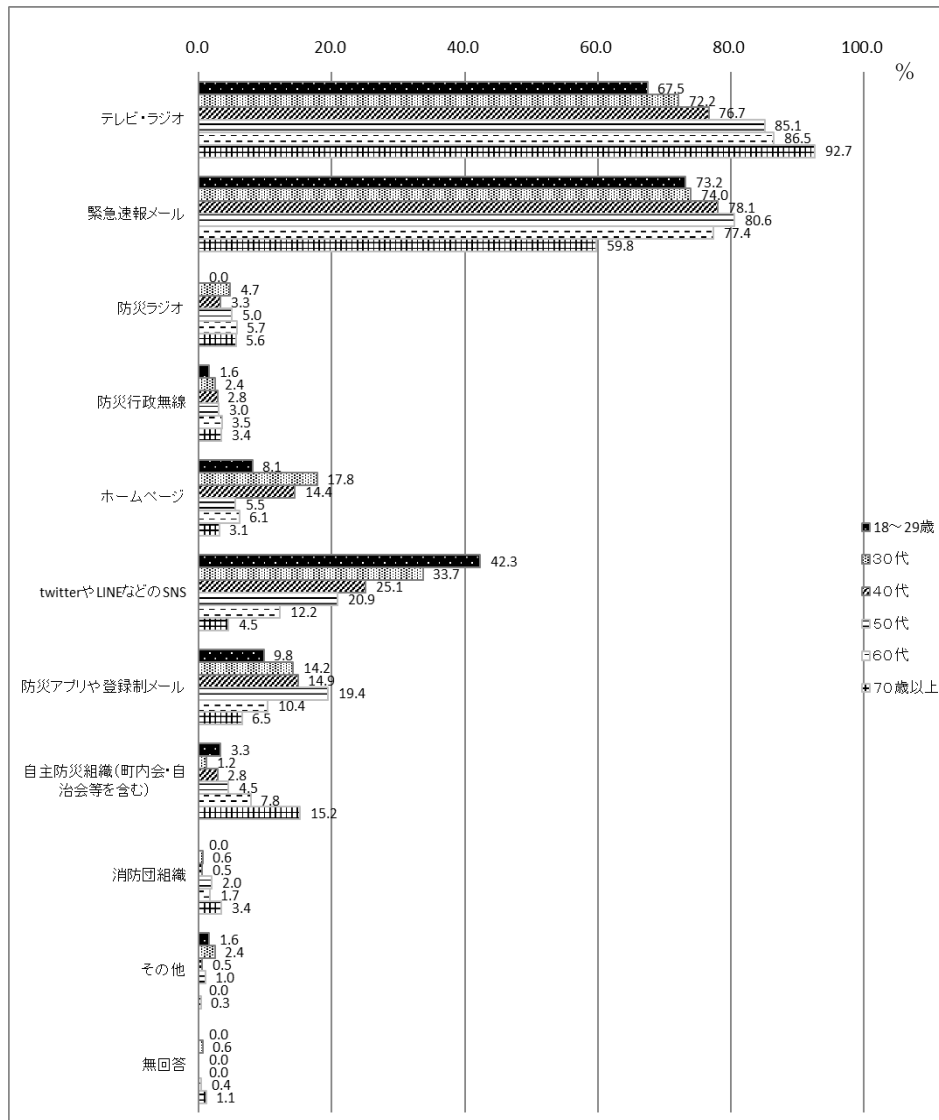


「テレビ・ラジオ」の割合が82.7%と非常に高く、Lアラート（※）による情報発信の有効性がうかがえる。また、「ホームページ」（8.3%）よりも、「twitterやLINEなどのSNS」（19.2%）及び「防災アプリや登録制メール」（11.9%）といった近年定着している手段の割合が高くなっていることから、今後もこれらの手段がより活用されることを想定して拡充を検討する必要がある。

※Lアラートとは…

災害発生時に、地方公共団体・ライフライン事業者が放送局・アプリ事業者等の多様なメディアを通じて、地域住民に必要な情報を迅速かつ効率的に伝達する共通基盤

【年代別】



70歳以上においてインターネット関連のツールを使用する手段の割合が極端に少ないことから、高齢者における情報端末の普及や操作方法の習得が課題となっていることがうかがえる。また、若い世代において「自主防災組織（町内会・自治会等を含む）」の割合が低いことから、若い世代における地域コミュニティへの参加不足も課題と思われる。インターネットを使用する手段が主となりつつあるが、世代間で情報取得の手段に偏りがみられるため、当面の間は多様な手段を活用する必要がある。

【全体を通じて】

「自主防災組織（町内会・自治会等を含む）」及び「消防団組織」による直接的な情報取得の割合が全体を通して低く、テレビやスマートフォンを使用した情報取得の割合が高かった。しかし、年代別の結果の傾向や、停電及び通信網の断絶を考慮し、割合が低い伝達手段についても必要性が大きいことから、今後も複数の手段を検討していく必要がある。

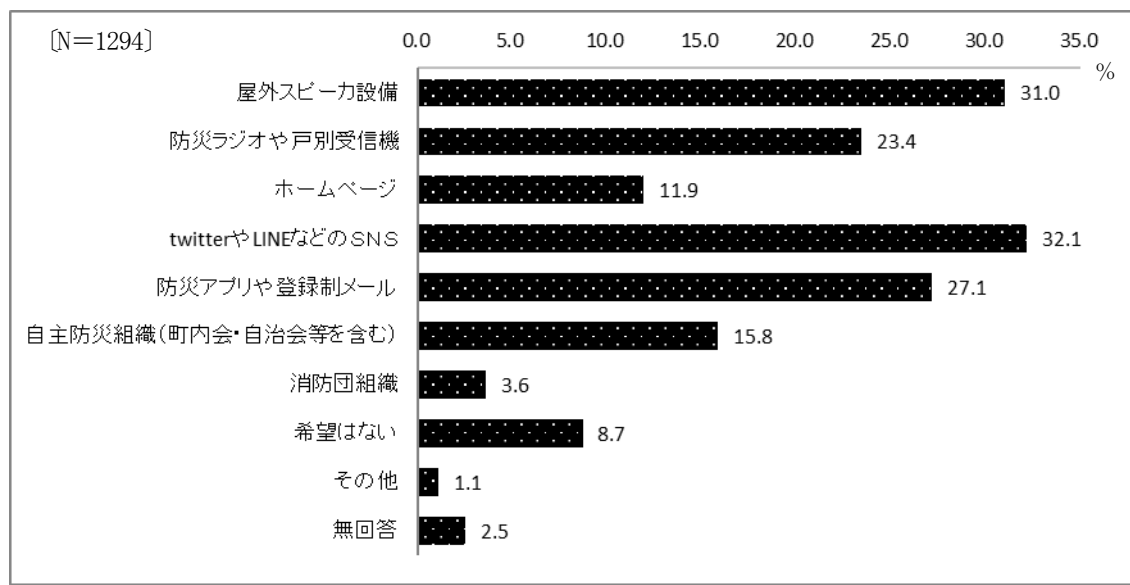
【性別, 年代別, 地区別の回答数】

		実数 (人)	テレビ・ラジオ	緊急速報メール	防災ラジオ	防災行政無線	ホームページ	twitterやLINEなどのSNS	防災アプリや登録制メール	自主防災組織 (町内会・自治会等を含む)	消防団組織	その他	無回答
全体		1294	1070	936	58	38	107	249	154	93	22	10	6
性別	男	569	451	410	26	20	53	102	86	33	15	6	3
	女	725	619	526	32	18	54	147	68	60	7	4	3
年代	18～19歳	30	21	19	0	0	2	10	3	3	0	1	0
	20～29歳	93	62	71	0	2	8	42	9	1	0	1	0
	30～39歳	169	122	125	8	4	30	57	24	2	1	4	1
	40～49歳	215	165	168	7	6	31	54	32	6	1	1	0
	50～59歳	201	171	162	10	6	11	42	39	9	4	2	0
	60～69歳	230	199	178	13	8	14	28	24	18	4	0	1
	70歳以上	356	330	213	20	12	11	16	23	54	12	1	4
地区	河北	407	344	283	16	6	35	70	48	25	4	1	0
	河南	171	138	131	9	6	15	42	21	14	3	1	1
	盛南	159	134	116	9	4	15	31	26	14	4	1	0
	厨川	290	236	215	11	2	18	55	33	19	2	3	4
	都南	228	189	165	9	2	22	47	21	19	7	3	1
	玉山	39	29	26	4	18	2	4	5	2	2	1	0

問8 あなたは、災害情報を入手する手段として、今後何を整備又は拡充してほしいですか。最も当てはまるものから2つまで○を付けてください。

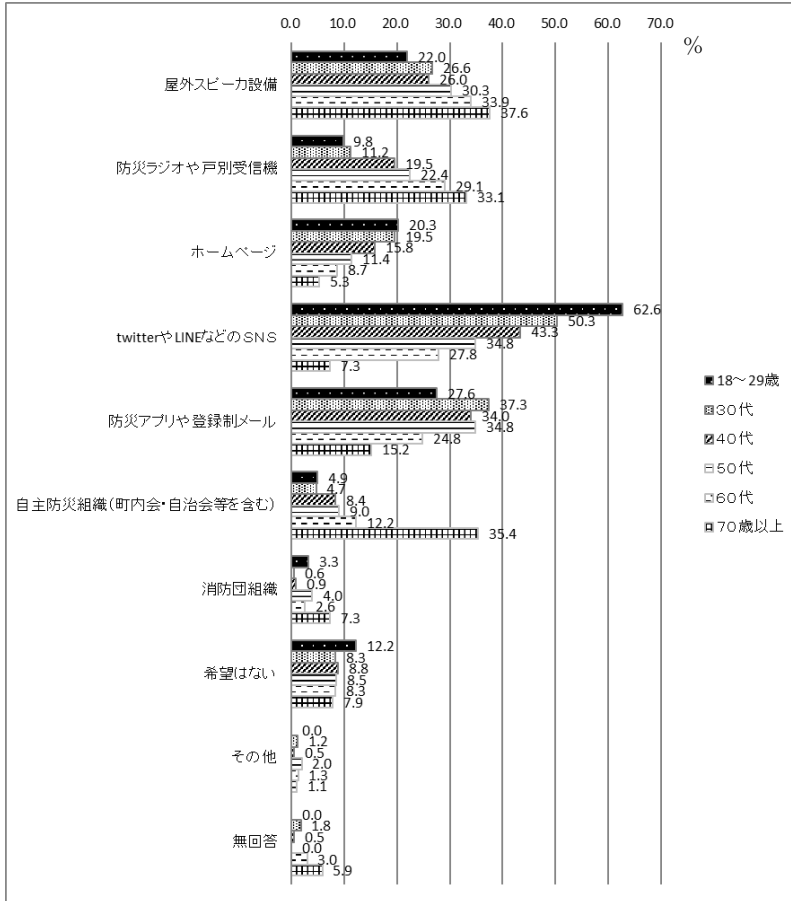
- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1 屋外スピーカ設備 | 6 自主防災組織（町内会・自治会等を含む） |
| 2 防災ラジオや戸別受信機 | 7 消防団組織 |
| 3 ホームページ | 8 希望はない |
| 4 twitterやLINEなどのSNS | 9 その他（ ） |
| 5 防災アプリや登録制メール | |

【全体】



「twitter やLINEなどのSNS」(32.1%)、「屋外スピーカ設備」(31.0%)、「防災アプリや登録制メール」(27.1%)、「防災ラジオや戸別受信機」(23.4%)といった自動的に情報を受け取ることのできる手段において割合が高いことから、SNSや防災行政無線、防災アプリ等を有効な情報発信手段として拡充を検討する。

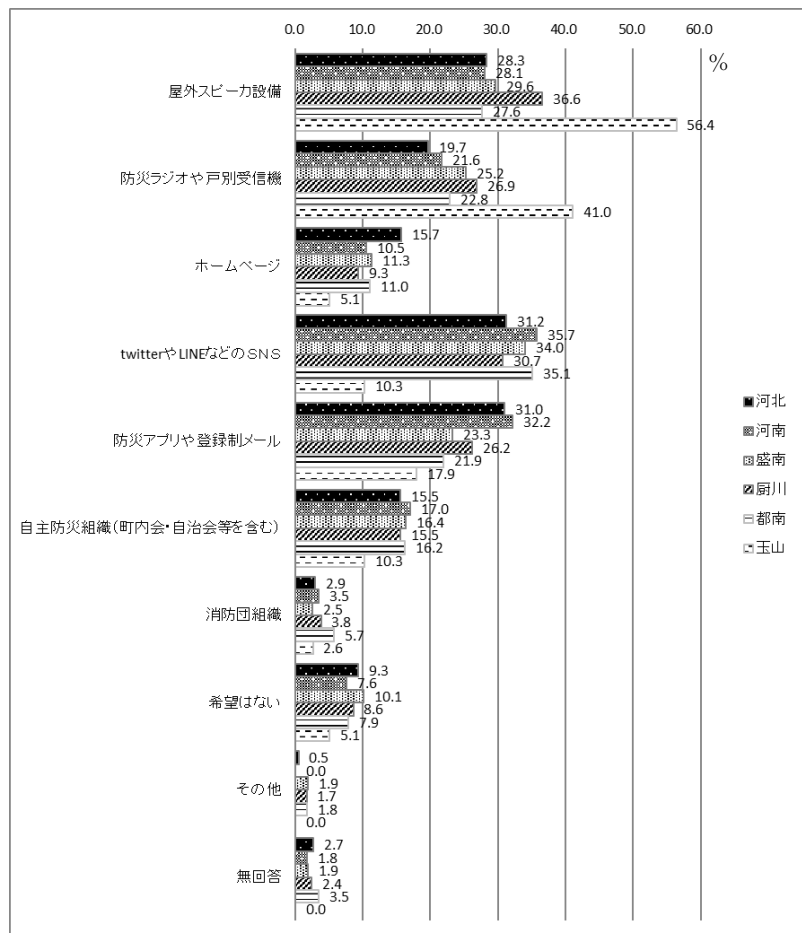
【年代別】



年代が高くなるにつれ、「屋外スピーカ設備」、「防災ラジオや戸別受信機」及び「自主防災組織（町内会・自治会等を含む）」といった情報端末を使用しない手段の割合が高い。また、「twitterやLINEなどのSNS」及び「防災アプリや登録制メール」は70歳以上になると極端に割合が低くなっており、高齢者においては情報端末を活用した情報取得の普及が難しいことがうかがえる。当面の間は直接的な伝達手段の拡充も検討する。

【地区別】

玉山地区においては比較的「自主防災組織（町内会・自治会等を含む）」の割合が低く、「屋外スピーカ設備」及び「防災ラジオや戸別受信機」の割合が高いことから、地区が広く全域的な組織活動が困難であるため自ら情報を取得できる手段を求めていることがうかがえる。スピーカ設備及び戸別受信機の両方の役割を果たす防災行政無線を有効な手段として拡充を検討する。



【全体を通じて】

「twitterやLINEなどのSNS」が60代においても拡充を希望していることや、玉山地区において防災行政無線が定着していることがうかがえる。これらの結果を踏まえ、各年代及び地区において、これまでの生活で定着した手段と併せて活用されるような組み合わせを検討する。

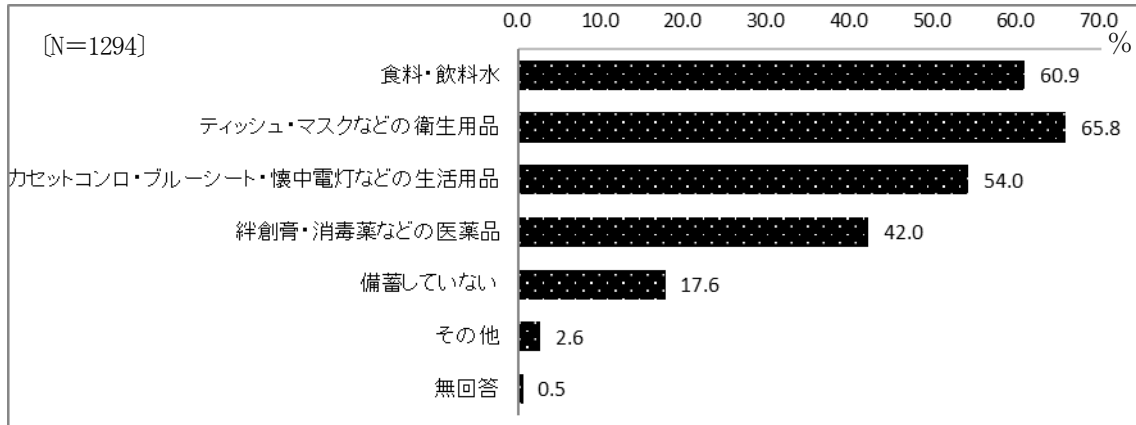
【性別、年代別、地区別の回答数】

		実数（人）	屋外スピーカ設備	防災ラジオや戸別受信機	ホームページ	twitterやLINEなどのSNS	防災アプリや登録制メール	自主防災組織（町内会・自治会等を含む）	消防团组织	希望はない	その他	無回答
全体		1294	401	303	154	415	351	204	47	112	14	32
性別	男	569	160	143	73	177	174	74	18	53	6	8
	女	725	241	160	81	238	177	130	29	59	8	24
年代	18～19歳	30	7	3	1	12	7	4	3	6	0	0
	20～29歳	93	20	9	24	65	27	2	1	9	0	0
	30～39歳	169	45	19	33	85	63	8	1	14	2	3
	40～49歳	215	56	42	34	93	73	18	2	19	1	1
	50～59歳	201	61	45	23	70	70	18	8	17	4	0
	60～69歳	230	78	67	20	64	57	28	6	19	3	7
	70歳以上	356	134	118	19	26	54	126	26	28	4	21
地区	河北	407	115	80	64	127	126	63	12	38	2	11
	河南	171	48	37	18	61	55	29	6	13	0	3
	盛南	159	47	40	18	54	37	26	4	16	3	3
	厨川	290	106	78	27	89	76	45	11	25	5	7
	都南	228	63	52	25	80	50	37	13	18	4	8
	玉山	39	22	16	2	4	7	4	1	2	0	0

問9 あなたは、日頃から自宅等で何を備蓄していますか。当てはまるもの全てに○を付けてください。

- 1 食料・飲料水
- 2 ティッシュ・マスクなどの衛生用品
- 3 カセットコンロ・ブルーシート・懐中電灯などの生活用品
- 4 絆創膏・消毒薬などの医薬品
- 5 備蓄していない
- 6 その他 ()

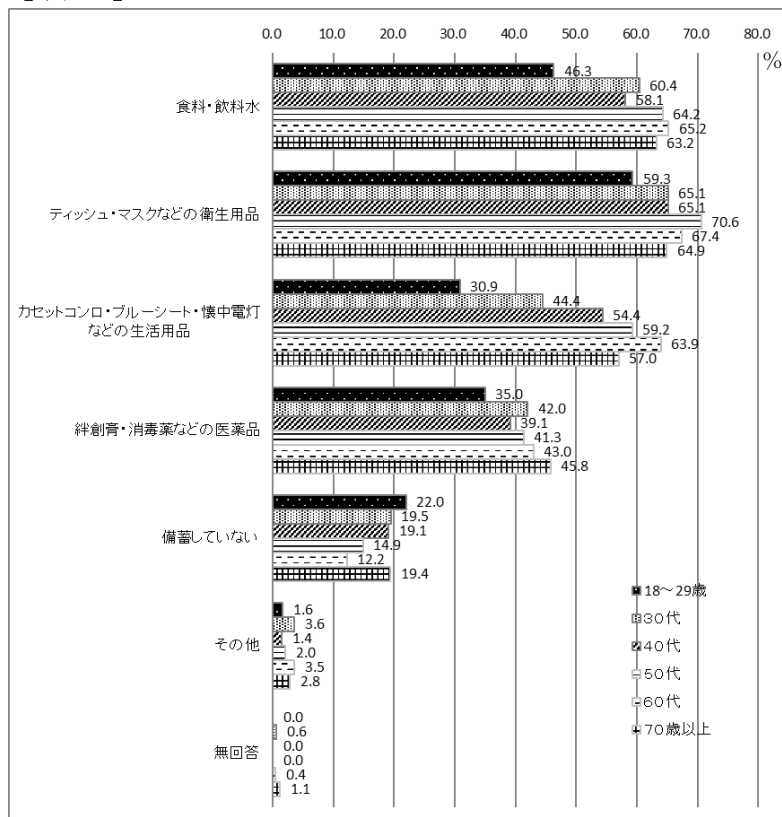
【全体】



全体としては、「ティッシュ・マスク等の衛生用品」が 65.8%と最も高く、次いで「食料・飲料水」が 60.9%であった。また、自由記載欄において除菌グッズの記載が見られたことから、新型コロナウイルス感染症対策への意識が高まっていることがうかがえる。

なお、備蓄していない割合が 17.6%と 2割近いことから、より一層防災訓練や防災講座の場を活かして意識啓発に努める。

【年代別】



年代が高いほど備蓄品目が多くなっており、過去の災害経験が活かされていることがうかがえる。今後は、過去の災害経験を継承しながら若い世代の意識啓発に取り組む必要がある。

【全体を通じて】

新型コロナウイルス感染症への対策意識が高まっていることや、若い世代の備蓄率向上に向けた取組が課題となっていることがうかがえる。今後、これらの結果を踏まえて防災講座等の内容を検討する必要がある。

※「その他」に記載された主なもの

- ・簡易トイレ
- ・電池
- ・ラジオ
- ・おむつ、離乳食などのベビー用品
- ・介護用品

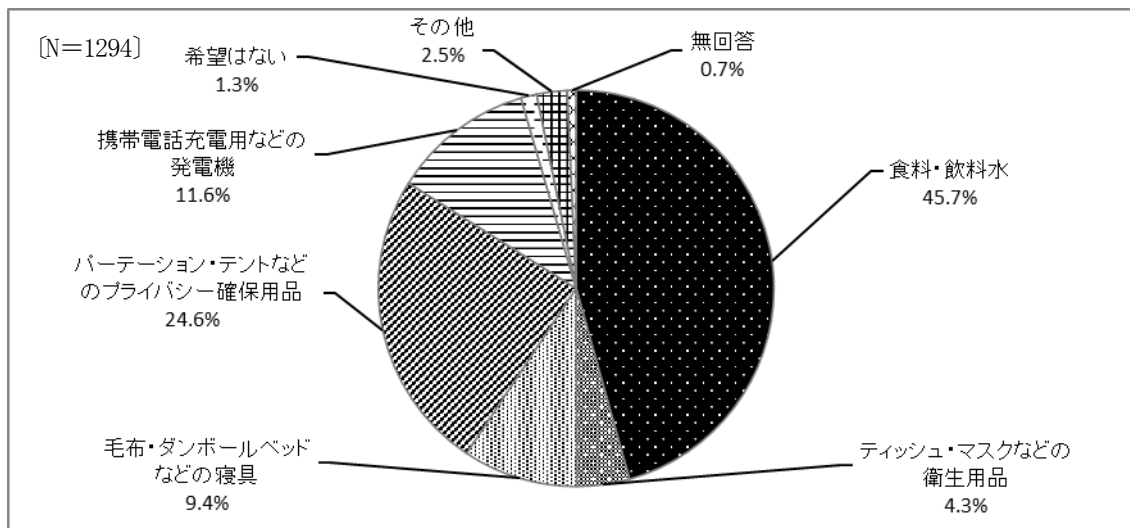
【性別、年代別、地区別の回答数】

		実数 (人)	食料・飲料水	用品 ティッシュ・マスクなどの衛生用品	カセットコンロ・ブルーシート・懐中電灯などの生活用品	絆創膏・消毒薬などの医薬品	備蓄していない	その他	無回答
全体		1294	788	851	699	543	228	33	6
性別	男	569	322	338	300	215	112	12	3
	女	725	466	513	399	328	116	21	3
年代	18～19歳	30	14	18	12	10	9	0	0
	20～29歳	93	43	55	26	33	18	2	0
	30～39歳	169	102	110	75	71	33	6	1
	40～49歳	215	125	140	117	84	41	3	0
	50～59歳	201	129	142	119	83	30	4	0
	60～69歳	230	150	155	147	99	28	8	1
	70歳以上	356	225	231	203	163	69	10	4
地区	河北	407	254	286	222	170	69	10	0
	河南	171	110	110	93	86	27	5	1
	盛南	159	93	100	85	65	25	4	0
	厨川	290	188	199	154	125	48	8	4
	都南	228	126	139	127	84	49	5	1
	玉山	39	17	17	18	13	10	1	0

問 10 あなたが、避難所に最も配備してほしい物資は何ですか。当てはまるもの 1つ に○を付けてください。

- 1 食料・飲料水
- 2 ティッシュ・マスクなどの衛生用品
- 3 毛布・ダンボールベッドなどの寝具
- 4 パーテーション・テントなどのプライバシー確保用品
- 5 携帯電話充電用などの発電機
- 6 希望はない
- 7 その他 ()

【全体】



最も割合が高いのは「食料・飲料水」(45.7%)、次いで「パーテーション・テントなどのプライバシー確保用品」(24.6%)であり、市に対する備蓄の要望が多い品目と市が重点的に備蓄している品目が合致していることがうかがえる。また、全体としては何らかの品目を要望している方が全体の98.0%を占めており公的備蓄のニーズの高さがうかがえる。現在の備蓄方針を基本としつつ、今後、公的備蓄の拡充を検討する。

【全体を通じて】

年代別及び地区別の結果においても、避難生活において最低限必要な「食料・飲料水」のほか、近年需要が高まっている「パーテーション・テントなどのプライバシー確保用品」及び「携帯電話充電用などの発電機」の割合が高い。今後の備蓄品目の検討における参考としたい。

※「その他」に記載された主なもの

- ・トイレ
- ・生理用品

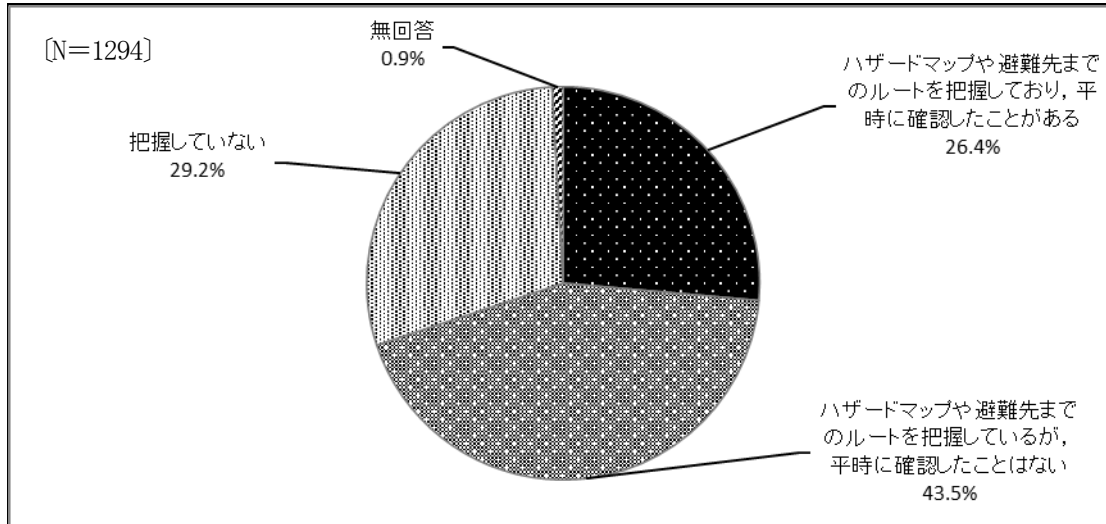
【性別、年代別、地区別の回答数】

		実数 (人)	食料・飲料水	ティッシュ・マスクなどの衛生用品	毛布・ダンボールベッドなどの寝具	確保用品 パーテーション・テントなどのプライバシー	携帯電話充電用などの発電機	希望はない	その他	無回答
全体		1294	592	55	121	318	150	17	32	9
性別	男	569	282	25	47	123	68	9	10	5
	女	725	310	30	74	195	82	8	22	4
年代	18～19歳	30	10	7	1	4	6	0	2	0
	20～29歳	93	48	4	3	19	16	0	3	0
	30～39歳	169	74	11	10	44	23	1	6	0
	40～49歳	215	80	16	17	61	36	1	2	2
	50～59歳	201	77	7	17	69	24	1	6	0
	60～69歳	230	99	6	25	68	20	6	4	2
	70歳以上	356	204	4	48	53	25	8	9	5
地区	河北	407	201	19	37	90	48	5	3	4
	河南	171	69	6	19	47	23	2	5	0
	盛南	159	77	7	13	35	19	4	3	1
	厨川	290	128	9	34	72	31	1	12	3
	都南	228	105	11	15	64	23	1	8	1
	玉山	39	12	3	3	10	6	4	1	0

問 11 あなたは、地域のハザードマップや避難ルートを把握し、避難先に行くことができますか。当てはまるもの1つに○を付けてください。

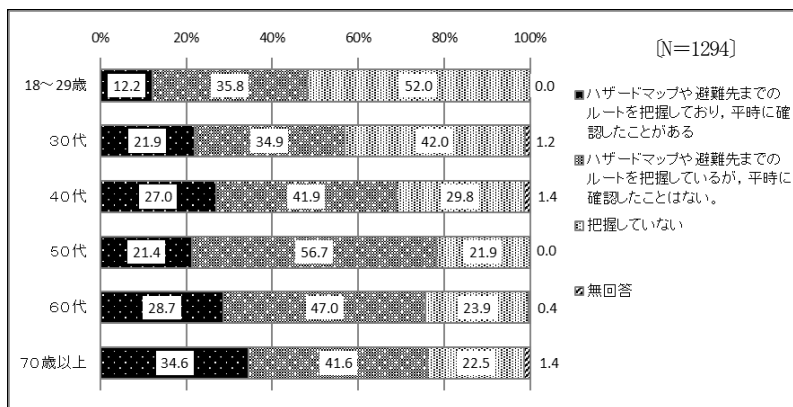
- 1 ハザードマップや避難先までのルートを把握しており、平時に確認したことがある
- 2 ハザードマップや避難先までのルートを把握しているが、平時に確認したことはない
- 3 把握していない

【全体】



ハザードマップや避難先へのルートを把握している割合は全体の69.9%と7割近い水準であるが、残りの約3割はハザードマップや避難先へのルートを把握しておらず、災害時の避難行動に支障をきたしかねない状況であることから、全ての人が把握することを目標に、防災訓練や防災講座、広報における防災特集により意識啓発を行う。

【年代別】



年代が高くなるにつれ、ハザードマップや避難先へのルートを把握している割合が高くなっており、町内会等の防災訓練や防災講座への関心が高い世代において把握割合が高いものと推測される。また、若い世代においては就職等による他市町村からの転入者が多いことも把握割合の低さにつながっていると推測される。若手世代への防災学習の機会提供や、転入者へハザードマップ確認を促すような取組が必要である。

【全体を通じて】

ハザードマップや避難先へのルートを把握している割合は、全体の69.9%に対し、30代以下の年代は6割以下であった。若い世代ほど体力面で優れており、避難活動において大きな役割を担うことが想定されるため、防災活動への参加を推進することが大きな課題である。

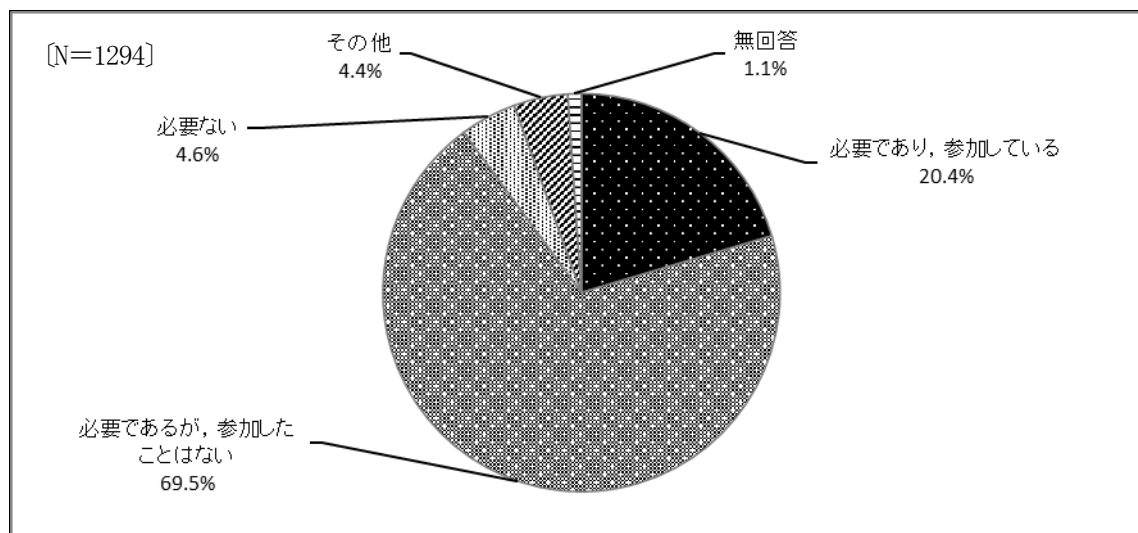
【性別、年代別、地区別の回答数】

		実数(人)	ハザードマップや避難先までのルート把握しており、平時に確認したことがある	ハザードマップや避難先までのルート把握しているが、平時に確認したことはない	把握していない	無回答
全体		1294	342	563	378	11
性別	男	569	159	230	176	4
	女	725	183	333	202	7
年代	18～19歳	30	4	14	12	0
	20～29歳	93	11	30	52	0
	30～39歳	169	37	59	71	2
	40～49歳	215	58	90	64	3
	50～59歳	201	43	114	44	0
	60～69歳	230	66	108	55	1
	70歳以上	356	123	148	80	5
地区	河北	407	113	177	116	1
	河南	171	48	74	49	0
	盛南	159	41	78	37	3
	厨川	290	68	131	87	4
	都南	228	67	82	76	3
	玉山	39	5	21	13	0

問 12 あなたは、地域の自主防災組織（町内会・自治会等を含む）で行う防災訓練への参加についてどう思いますか。当てはまるもの1つに○を付けてください。

- 1 必要であり、参加している
- 2 必要であるが、参加したことはない
(理由:)
- 3 必要ない
(理由:)
- 4 その他 ()

【全体】



全体の89.9%と約9割が地域で行う防災訓練を必要と感じている。しかし、そのうち69.5%は必要であるが参加したことがないとの回答であった。必要性は感じているが参加したことがない方が多数いる実情を踏まえ、開催日の調整や周知方法の工夫、高齢者等でも行える内容にするなど、参加しやすい環境づくりが必要である。

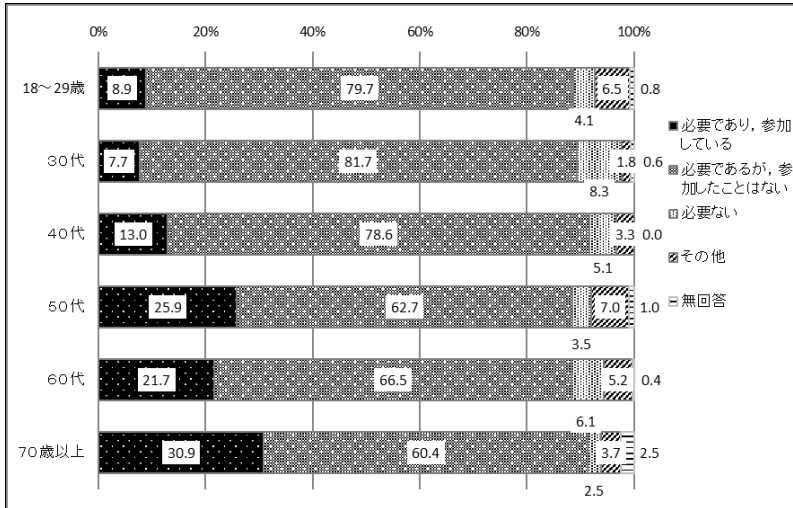
※「2 必要であるが、参加したことはない」を選択した主な理由

- ・いつ、どこで実施しているのか分からない
- ・仕事等で予定が合わない
- ・高齢のため

※「3 必要ない」を選択した主な理由

- ・実際は一緒に行動するわけではないから
- ・形式的で意味がない

【年代別】



地域が行う防災訓練を必要としている割合はどの年代でも概ね9割程度であるが、実際に参加している割合は年代に比例して高くなっている。地域における防災訓練の主体が高齢化しており、若い世代の参加者確保が課題となっていることがうかがえる。仕事により参加できない方への対策として休日に訓練を実施する等の工夫が必要である。

【全体を通じて】

様々な観点から見ても、必要と感じているものの参加したことはないという割合が非常に高い。災害の危険性をより身近に感じて、防災訓練への参加機会を増やすことが課題である。

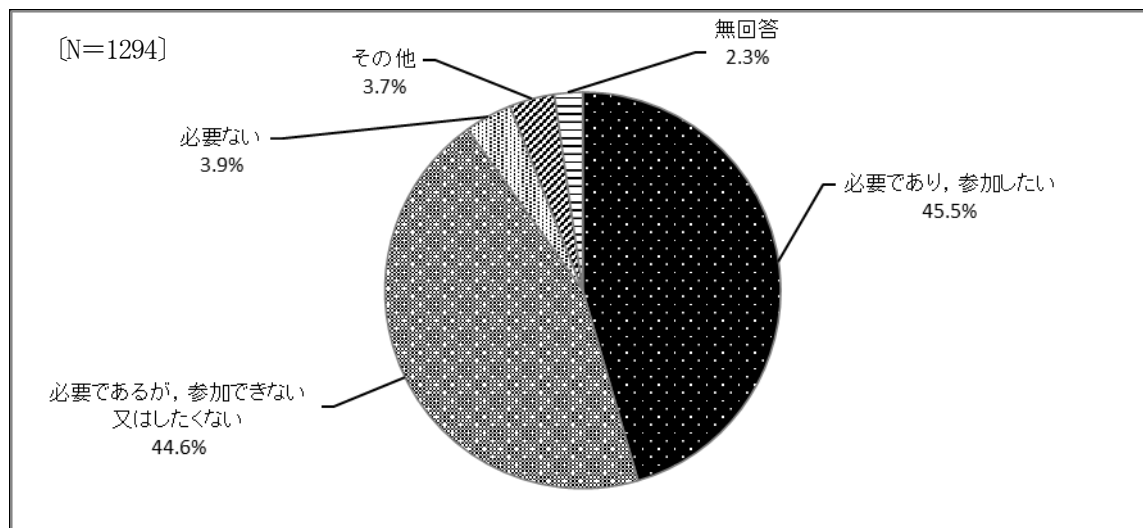
【性別，年代別，地区別の回答数】

		実数(人)	必要であり、参加している	必要であるが、参加したことはない	必要ない	その他	無回答
全体		1294	264	899	60	57	14
性別	男	569	130	371	42	21	5
	女	725	134	528	18	36	9
年代	18~19歳	30	4	23	1	1	1
	20~29歳	93	7	75	4	7	0
	30~39歳	169	13	138	14	3	1
	40~49歳	215	28	169	11	7	0
	50~59歳	201	52	126	7	14	2
	60~69歳	230	50	153	14	12	1
	70歳以上	356	110	215	9	13	9
地区	河北	407	86	291	14	11	5
	河南	171	25	130	9	7	0
	盛南	159	32	112	8	6	1
	厨川	290	54	197	15	18	6
	都南	228	60	144	10	12	2
	玉山	39	7	25	4	3	0

問 13 あなたは、市が実施する総合防災訓練や防災講座への参加についてどう思いますか。当てはまるもの1つに○を付けてください。

- 1 必要であり、参加したい
- 2 必要であるが、参加できない又はしたくない
(理由:)
- 3 必要ない
(理由:)
- 4 その他 ()

【全体】



全体の90.1%が、市が主催する総合防災訓練や防災講座を必要と感じている。そのうち45.5%が参加したいと感じているが、44.6%は参加できない又はしたくないと感じている。理由として、仕事や用事により参加できないとの意見が多く寄せられていることから、訓練を実施する地域ごとに開催曜日の調整を行う等、希望者になるべく参加できるよう工夫する必要がある。

※「2 必要であるが、参加できない又はしたくない」を選択した主な理由

- ・仕事等で予定が合わない
- ・忙しい
- ・めんどろ
- ・高齢のため

※「3 必要ない」を選択した主な理由

- ・地域ごとに行っていれば必要ない
- ・形式的で意味がない

【性別、年代別、地区別の回答数】

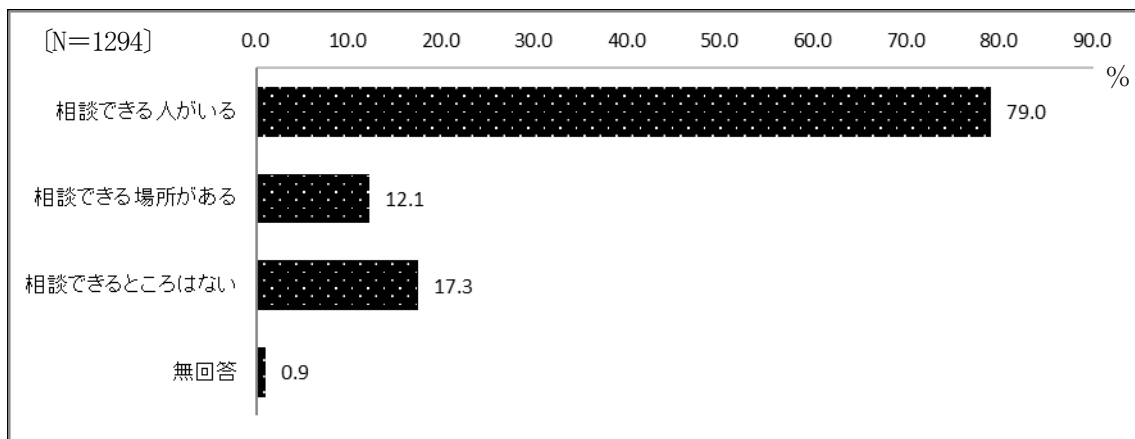
		実数 (人)	必要であり、 参加したい	必要であるが、 参加できない又はしたくない	必要ない	その他	無回答
全体		1294	589	577	50	48	30
性別	男	569	261	244	37	16	11
	女	725	328	333	13	32	19
年代	18～19歳	30	14	15	0	0	1
	20～29歳	93	39	47	3	4	0
	30～39歳	169	66	86	8	8	1
	40～49歳	215	81	112	13	6	3
	50～59歳	201	95	92	7	6	1
	60～69歳	230	111	92	11	13	3
	70歳以上	356	183	133	8	11	21
地区	河北	407	179	191	16	10	11
	河南	171	78	78	5	9	1
	盛南	159	64	81	6	5	3
	厨川	290	136	119	13	13	9
	都南	228	115	89	9	9	6
	玉山	39	17	19	1	2	0

《テーマ3 こころの健康づくりについて》

問14 あなたは、悩みや問題を抱えたとき相談できるところ（人や場所）がありますか。当てはまるもの全てに○を付けてください。

- | | |
|--------------|---------------|
| 1 相談できる人がいる | 3 相談できるところはない |
| 2 相談できる場所がある | |

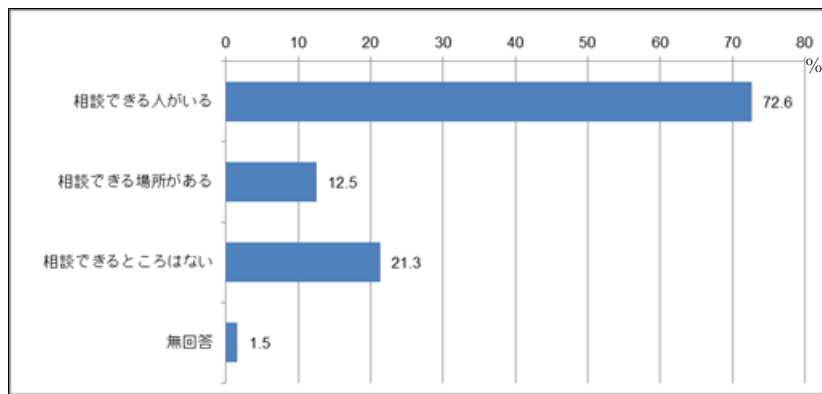
【全体】



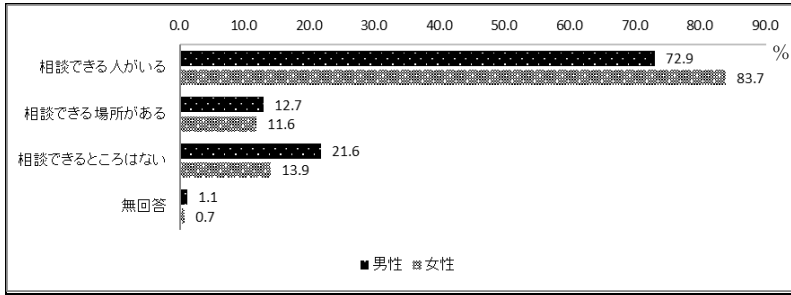
前回の調査結果と比べて、「相談できる人がいる」の割合は72.6%から79.0%と6.4ポイントと増加している。約8割の方が何らかの形で周囲に相談や支援を求めていることが分かる。「相談できるところはない」の割合は、前回調査の21.3%から17.3%と4.0ポイント減少している。

【参考】

第22回市民意識調査（平成29年度）類似設問の結果

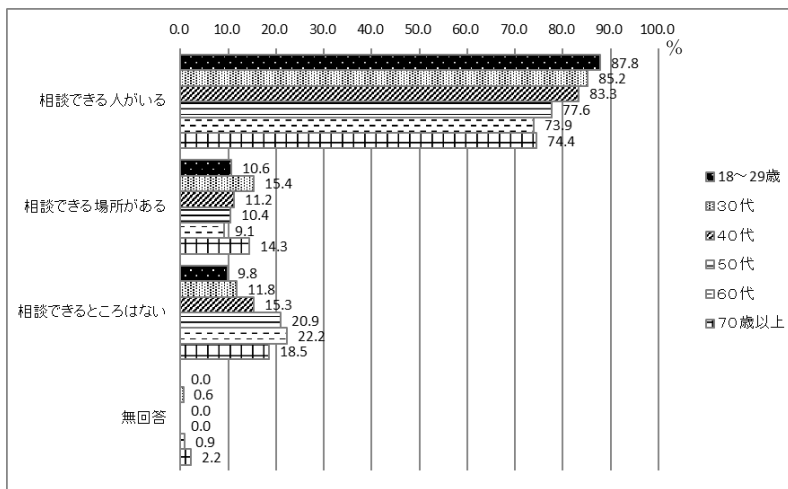


【性別】



「相談できる人がいる」の割合は、女性が83.7%と男性より10.8ポイント上回っている。それに対し、「相談できるところはない」の割合は男性が21.6%で女性より7.7ポイント上回っている。男性より女性の方が相談できる体制が取れていることが分かる。

【年代別】



「相談できる人がいる」の割合は、18~29歳が87.8%と最も高い。年代が上がるにつれ割合が低くなる傾向が見られ、60代が73.9%と最も低くなっている。「相談できるところはない」と答えたのは、中高年において割合が高い傾向がある。

【全体を通じて】

「相談できる人がいる」「相談できる場所がある」を合わせた割合は、年代、性別に関わらず8割以上だった一方で、「相談できるところがない」と回答した人は、全体の平均で2割弱おり、性別では男性が多く、高齢者で割合が高い傾向がみられた。しかし、割合は前回調査よりいずれの性別、年代においても低くなっていた。これは、SNSなどの普及や、令和2年7月から開始しているLINEを活用した相談窓口紹介の効果も少なからず出ていると思われる。今後も、分かりやすい相談窓口の周知を継続していく必要がある。

【性別、年代別、地区別の回答数】

		実数 (人)	相談 できる人がいる	相談 できる場所がある	相談 できるところはない	無回答
全体		1294	1022	156	224	11
性別	男	569	415	72	123	6
	女	725	607	84	101	5
年代	18～19歳	30	29	2	1	0
	20～29歳	93	79	11	11	0
	30～39歳	169	144	26	20	1
	40～49歳	215	179	24	33	0
	50～59歳	201	156	21	42	0
	60～69歳	230	170	21	51	2
	70歳以上	356	265	51	66	8
地区	河北	407	316	45	76	6
	河南	171	136	17	31	0
	盛南	159	127	15	24	1
	厨川	290	226	48	49	4
	都南	228	186	26	37	0
	玉山	39	31	5	7	0

【全体を通じて】

多くの方にとって、「家族」や「友人」「職場の同僚」等、身近な人が相談先となっていることがうかがえる。しかし、高齢になると、家族以外に専門機関の相談割合が高い傾向にあり、世帯構成の変化や介護等で専門性の高い相談へつながっていると推測される。

※「その他」に記載された主なもの

- ・主治医
- ・親戚
- ・ケアマネージャー

【性別、年代別、地区別の回答数】

		実数 (人)	家族	友人	学校の先生	職場の同僚	専門相談機関	その他	無回答
全体		1178	879	558	11	211	97	54	7
性別	男	487	358	199	7	94	43	22	3
	女	691	521	359	4	117	54	32	4
年代	18～19歳	31	20	26	4	2	0	0	0
	20～29歳	90	71	56	3	18	4	0	0
	30～39歳	170	132	77	2	50	12	2	0
	40～49歳	203	158	95	1	63	13	7	0
	50～59歳	177	132	71	1	51	12	5	2
	60～69歳	191	135	98	0	22	18	14	3
	70歳以上	316	231	135	0	5	38	26	2
地区	河北	361	268	175	4	58	29	18	1
	河南	153	117	78	2	29	11	5	0
	盛南	142	115	60	0	25	12	6	2
	厨川	274	194	120	3	52	29	14	0
	都南	212	159	109	1	41	13	8	2
	玉山	36	26	16	1	6	3	3	2

【全体を通して】

40代までは、「ある」と答えた方が、「ない」の倍以上と多いのに対し、60代以降になると他者の悩みを聞く機会が減少している傾向がうかがえた。高齢化率が高い玉山地区においても同じ傾向がみられる。今後も相談しやすい体制づくりの充実が望まれる。

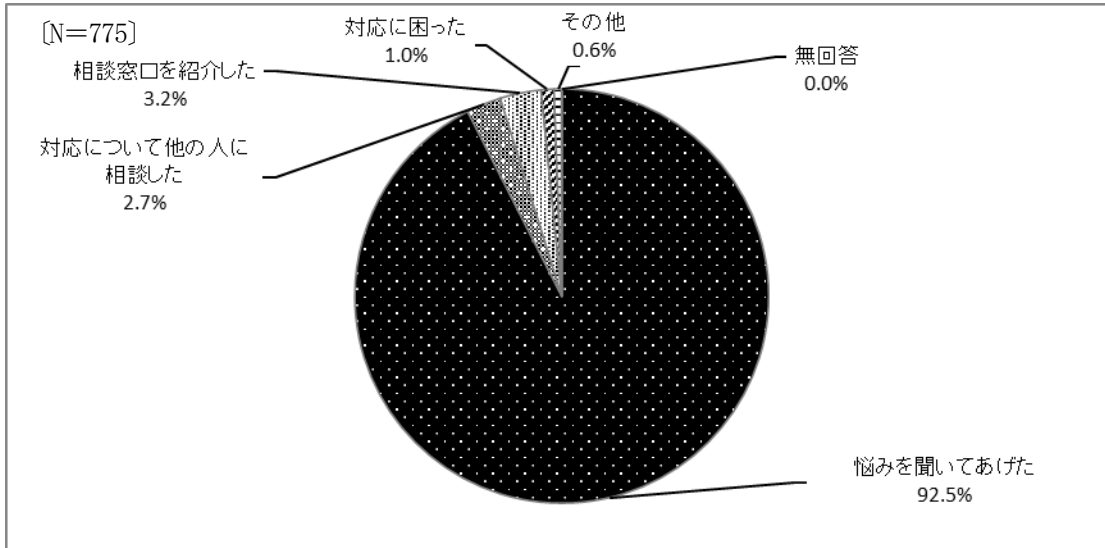
【性別, 年代別, 地区別の回答数】

		実数 (人)	ある	ない	無回答
全体		1294	775	501	18
性別	男	569	299	265	5
	女	725	476	236	13
年代	18～19歳	30	24	6	0
	20～29歳	93	71	22	0
	30～39歳	169	124	44	1
	40～49歳	215	146	68	1
	50～59歳	201	127	73	1
	60～69歳	230	115	105	10
	70歳以上	356	168	183	5
地区	河北	407	248	153	6
	河南	171	108	60	3
	盛南	159	86	70	3
	厨川	290	182	106	2
	都南	228	131	94	3
	玉山	39	20	18	1

問17 問16で「1 ある」を選んだ方にお聞きします。あなたは、悩みを相談されたときどう対応しましたか。当てはまるもの1つに○を付けてください。

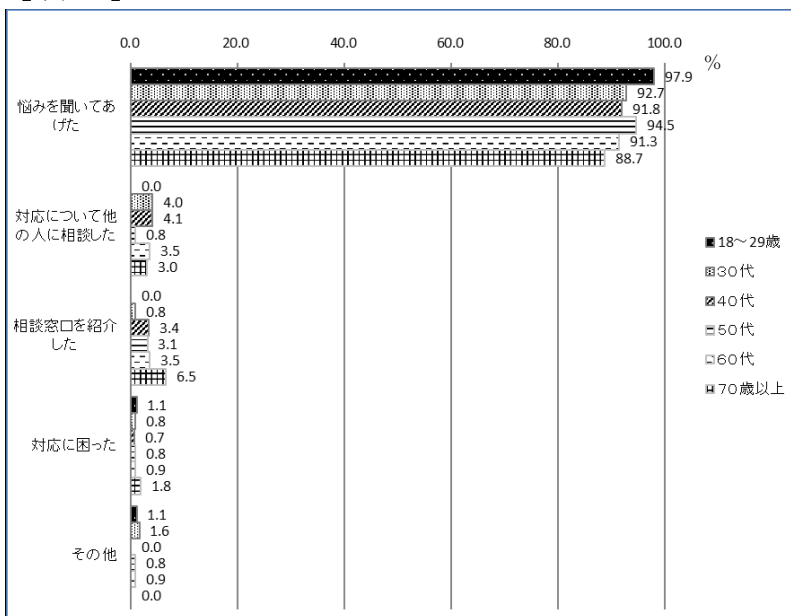
- | | |
|------------------|-----------|
| 1 悩みを聞いてあげた | 4 対応に困った |
| 2 対応について他の人に相談した | 5 その他 () |
| 3 相談窓口を紹介した | |

【全体】



「悩みを聞いてあげた」の割合が92.5%と最も高く、次いで「相談窓口を紹介した」が3.2%、「対応についてほかの人に相談した」が2.7%だった。対応に困った人は全体の1%であった。

【年代別】



「悩みを聞いてあげた」の割合は、若い年代において高い傾向がみられたが、どの年代でも約9割と高い傾向にある。「対応についてほかの人に相談した」、「相談窓口を紹介した」の割合は、30代以降は年代によりばらつきがみられた。40代以降から「相談窓口を紹介した」の割合も増えており、70歳以上では、2番目に高かった。

【全体を通して】

各年代、性別問わず、大半の方が相談されるとまず聞くという姿勢で傾聴したり、相談に乗ったりすることができていた。また、年代が上がるにつれ、対応について他者に相談したり、相談窓口につないだりする割合が高くなっている。今後もゲートキーパー研修などを通じて専門的な相談窓口へつなげられるようなスキルや体制を整えていく必要がある。

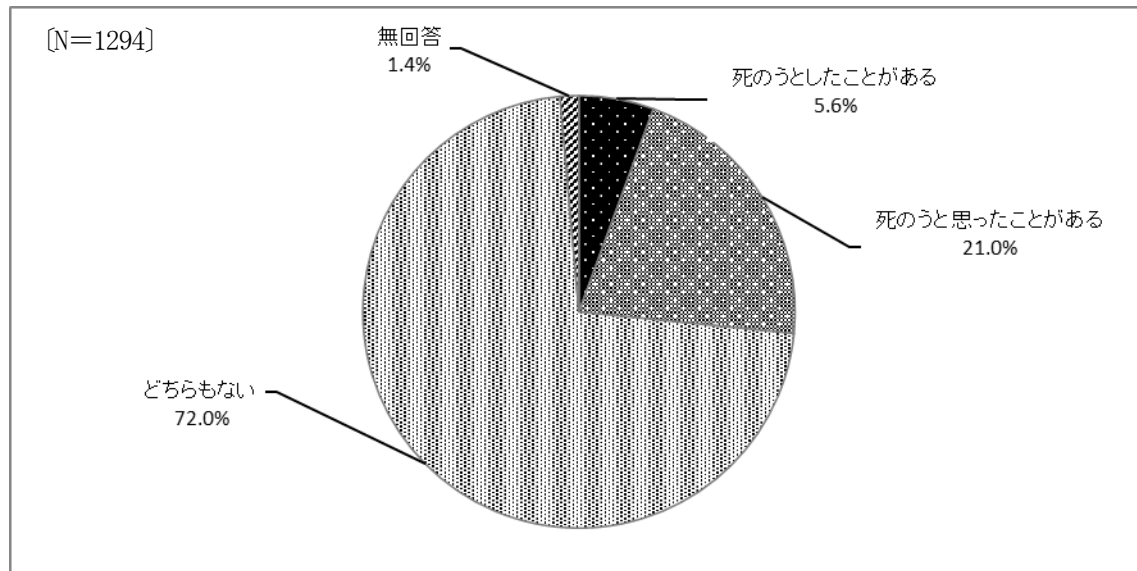
【性別、年代別、地区別の回答数】

		実数 (人)	悩みを聞いてあげた	対応について他の人に相談した	相談窓口を紹介した	対応に困った	その他	無回答
全体		775	716	21	25	8	5	0
性別	男	299	271	11	12	4	1	0
	女	476	445	10	13	4	4	0
年代	18～19歳	24	23	0	0	0	1	0
	20～29歳	71	70	0	0	1	0	0
	30～39歳	124	115	5	1	1	2	0
	40～49歳	146	134	6	5	1	0	0
	50～59歳	127	120	1	4	1	1	0
	60～69歳	115	105	4	4	1	1	0
	70歳以上	168	149	5	11	3	0	0
地区	河北	248	228	4	10	5	1	0
	河南	108	102	2	3	1	0	0
	盛南	86	78	4	1	1	2	0
	厨川	182	169	5	6	1	1	0
	都南	131	121	6	3	0	1	0
	玉山	20	18	0	2	0	0	0

問 18 あなたは、今まで死のうとした、又は死のうと思ったことはありますか。当てはまるもの1つに○を付けてください。

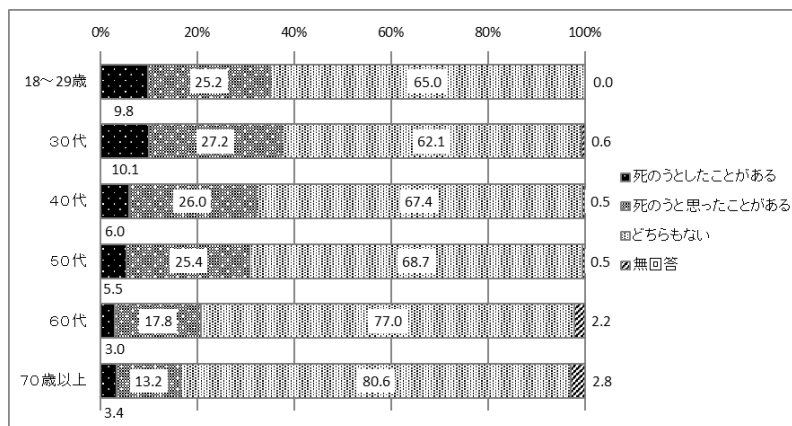
- | | |
|----------------|----------|
| 1 死のうとしたことがある | 3 どちらもない |
| 2 死のうと思ったことがある | |

【全体】



希死念慮について尋ねた問いでは、「死のうとしたことがある」の割合が 5.6%、「死のうと思ったことがある」が 21.0%、「どちらもない」は 72.0%であった。

【年代別】



「死のうと思ったことがある」の割合は 30 代が 27.2%と最も高く、次いで 18～29 歳が 25.2%と、30 代までの若い世代で希死念慮が高い傾向がみられた。要因としては、社会人として歩み始めた人間関係の悩みや働き盛り世代での仕事上の悩みなどが考えられる。

「死のうとしたことがある」と「死のうと思ったことがある」の割合を合わせると、50 代までは 3 割を超えており、特に 30 代においては 4 割近くに上っている。悩んだ時の相談窓口の啓発や、小中学校教育において、積極的に周囲にサポートを求めることができるように指導するなど、教育機関での働きかけが必要と思われる。

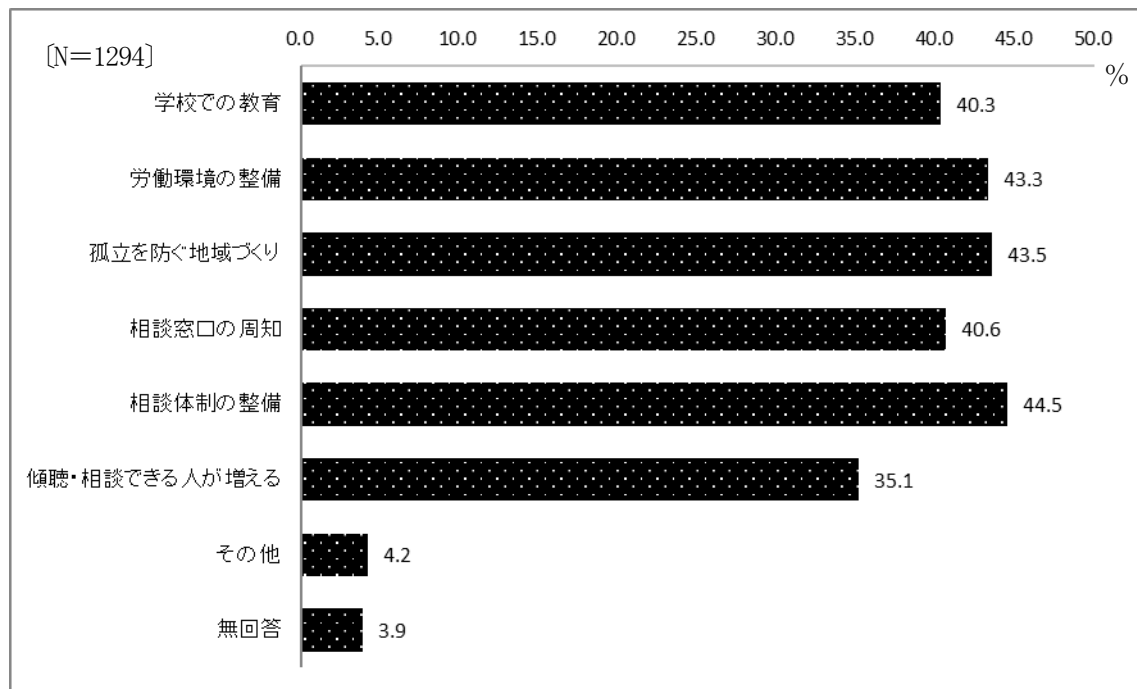
【性別，年代別，地区別の回答数】

		実数 (人)	死のうとしたことがある	死のうと思ったことがある	どちらもない	無回答
全体		1294	72	272	932	18
性別	男	569	33	113	418	5
	女	725	39	159	514	13
年代	18～19 歳	30	6	7	17	0
	20～29 歳	93	6	24	63	0
	30～39 歳	169	17	46	105	1
	40～49 歳	215	13	56	145	1
	50～59 歳	201	11	51	138	1
	60～69 歳	230	7	41	177	5
	70 歳以上	356	12	47	287	10
地区	河北	407	26	84	293	4
	河南	171	12	31	127	1
	盛南	159	7	35	116	1
	厨川	290	18	74	192	6
	都南	228	7	40	176	5
	玉山	39	2	8	28	1

問 19 あなたは、こころの健康づくりの効果をあげるために有効と思われるものはありますか。当てはまるもの全てに○を付けてください。

- | | |
|--------------|-----------------|
| 1 学校での教育 | 5 相談体制の整備 |
| 2 労働環境の整備 | 6 傾聴・相談できる人が増える |
| 3 孤立を防ぐ地域づくり | 7 その他（ ） |
| 4 相談窓口の周知 | |

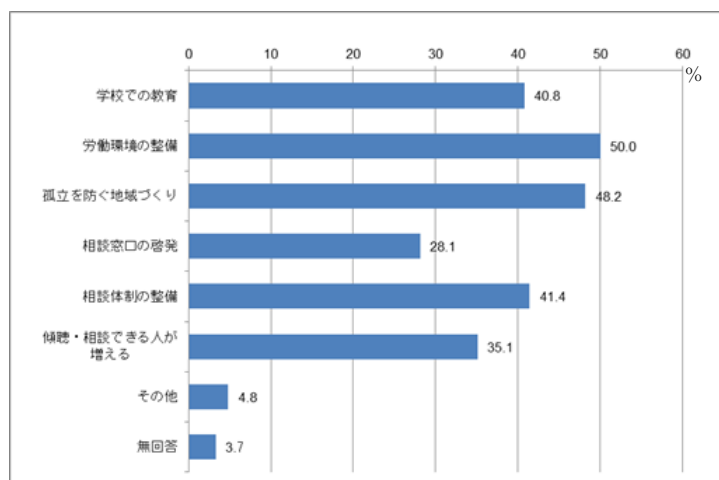
【全体】



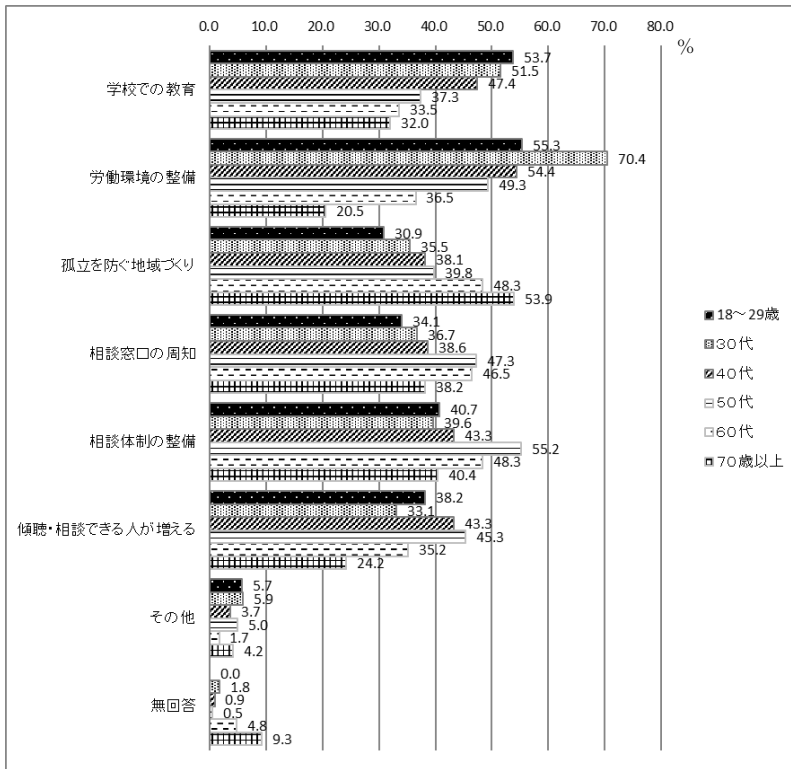
「相談体制の整備」が44.5%と最も高く、次いで「孤立を防ぐ地域づくり」が43.5%、「労働環境の整備」が43.3%となっている。前回の調査と比べると、「相談窓口の周知」の割合が28.1%から40.6%と12.5ポイントも増えていた。悩んだときや困ったときに、自分たちに身近な相談窓口を知っておきたいと思う人が多くなっていると考えられる。

【参考】

第22回市民意識調査（平成29年度）類似設問の結果



【年代別】



18～29歳では、「学校での教育」の割合が他の世代に比べて高かった。30代と40代では「労働環境の整備」が最も高く、50代では「相談体制の整備」、次いで「労働環境の整備」となっていた。60代以上になると、「孤立を防ぐ地域づくり」や「相談体制の整備」の割合が高い傾向がみられた。各年代とも相談窓口の充実や支援体制の整備を望む声が多いと分かった。

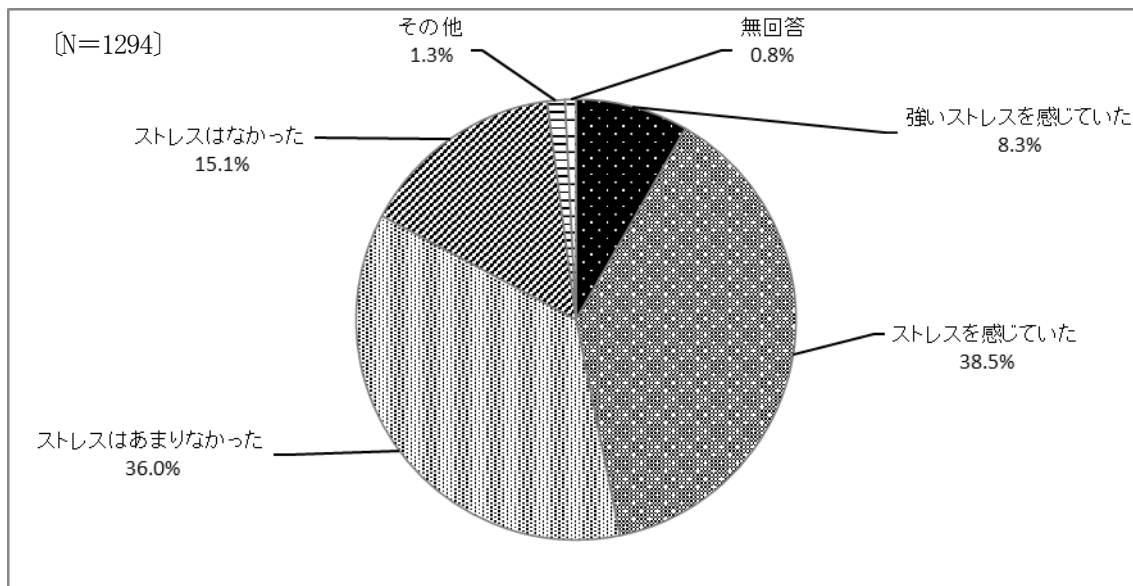
【性別、年代別、地区別の回答数】

		実数 (人)	学校での教育	労働環境の整備	孤立を防ぐ地域づくり	相談窓口の周知	相談体制の整備	傾聴・相談できる人が増える	その他	無回答
全体		1294	521	560	563	525	576	454	54	50
性別	男	569	215	252	240	210	259	171	30	16
	女	725	306	308	323	315	317	283	24	34
年代	18～19歳	30	15	11	7	5	10	11	3	0
	20～29歳	93	51	57	31	37	40	36	4	0
	30～39歳	169	87	119	60	62	67	56	10	3
	40～49歳	215	102	117	82	83	93	93	8	2
	50～59歳	201	75	99	80	95	111	91	10	1
	60～69歳	230	77	84	111	107	111	81	4	11
	70歳以上	356	114	73	192	136	144	86	15	33
地区	河北	407	154	186	194	178	186	156	12	13
	河南	171	68	76	87	68	86	64	8	3
	盛南	159	64	65	64	63	71	45	6	8
	厨川	290	128	125	116	118	120	103	16	12
	都南	228	93	94	83	89	100	74	9	11
	玉山	39	14	14	19	9	13	12	3	3

問 20 あなたは、コロナウイルス感染拡大に伴った緊急事態宣言の期間、自粛生活にストレスを感じていましたか。当てはまるもの1つに○を付けてください。

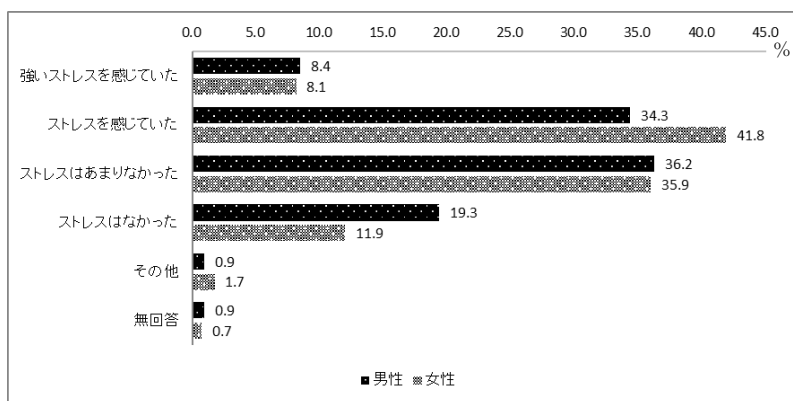
- | | |
|----------------|-------------|
| 1 強いストレスを感じていた | 4 ストレスはなかった |
| 2 ストレスを感じていた | 5 その他 () |
| 3 ストレスはあまりなかった | |

【全体】



「強いストレスを感じていた」または「ストレスを感じていた」の割合を合わせると 46.8%であり、「ストレスはあまりなかった」「ストレスはなかった」を合わせた割合が 51.1%であった。

【性別】



女性が「ストレスを感じていた」と答えた割合が高かったのに対し、「ストレスはなかった」と答えた割合は男性が高かった。

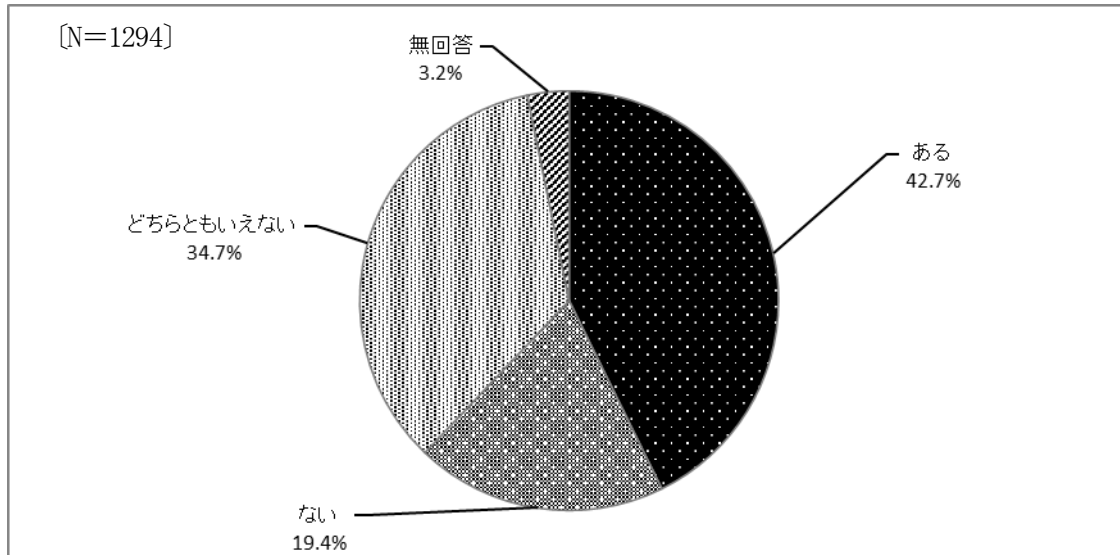
【性別, 年代別, 地区別の回答数】

		実数 (人)	強い ストレスを 感じていた	ストレスを 感じていた	ストレスは あまりな かった	ストレスは なかつた	その他	無 回 答
全体		1294	107	498	466	196	17	10
性別	男	569	48	195	206	110	5	5
	女	725	59	303	260	86	12	5
年代	18～19 歳	30	1	12	9	7	1	0
	20～29 歳	93	9	42	24	17	1	0
	30～39 歳	169	22	65	52	26	3	1
	40～49 歳	215	21	89	71	27	6	1
	50～59 歳	201	18	82	74	23	3	1
	60～69 歳	230	16	84	94	32	0	4
	70 歳以上	356	20	124	142	64	3	3
地区	河北	407	30	145	170	56	2	4
	河南	171	17	68	57	21	8	0
	盛南	159	10	68	54	24	3	0
	厨川	290	34	118	94	41	1	2
	都南	228	14	87	78	45	2	2
	玉山	39	2	12	13	9	1	2

問 21 あなたは、ストレスを感じた時の対処法はありますか。当てはまるもの1つに○を付けてください。

- 1 ある（具体的に： _____）
 2 ない
 3 どちらともいえない

【全体】

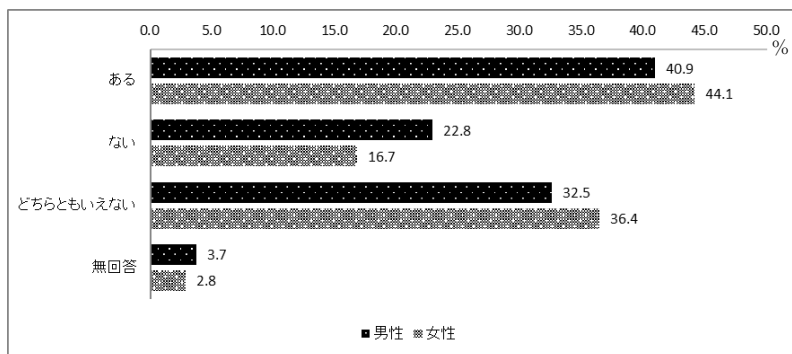


「ある」の割合は全体の42.7%、「どちらともいえない」が34.7%、「ない」が19.4%であった。

※「ある」の具体例

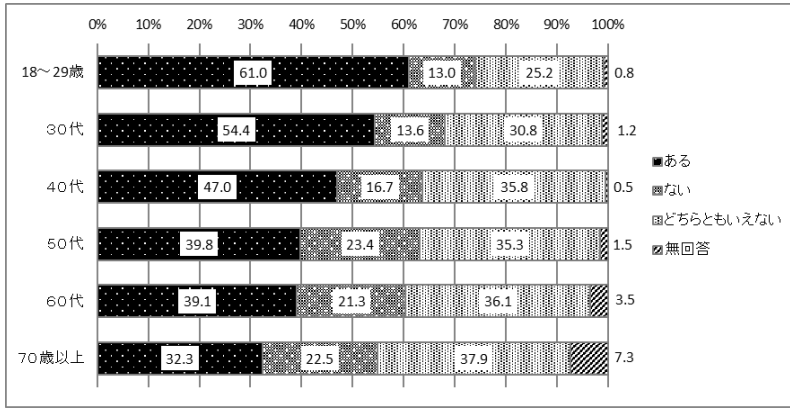
- ・自分の好きなことをする
- ・スポーツなどで体を動かす。
- ・趣味を楽しむ。
- ・お酒を飲む。
- ・家族や友人に相談する。話を聞いてもらう。
- ・眠る。休む。
- ・美味しいものを食べる。
- ・買い物をする。
- ・家族や子どもと過ごす。

【性別】



「ある」と答えた方が、女性のほうが65.7%と男性の52.5%より高かった。

【年代別】



「ある」と答えた割合は18～29歳が最も多く、以降は徐々に減少傾向がみられ、「どちらともいえない」の割合が高くなっている。50代以上は「ない」の割合が2割を超えていた。

【全体を通して】

ストレスの対処法は、全体を通して「自分の好きなことをする」「体を動かす」「休む、寝る、食べる」といった回答が多かった。男性では「スポーツなど体を動かす」「自分の好きなことをする」といった回答が多かったのに対し、女性では「友人とおしゃべりをする」「家族や子供と過ごす」といった回答が多かった。無理をせず、のんびり好きなことをするという傾向がみられた。

また、「ある」の割合は40代で5割以下となり、70歳以上では約3割となっていることから、年代が上がるにつれてストレスにうまく対処できていない傾向が見られる。今後もメンタルヘルス対策の重要性や対応について啓発や周知をしていく必要がある。

【性別、年代別、地区別の回答数】

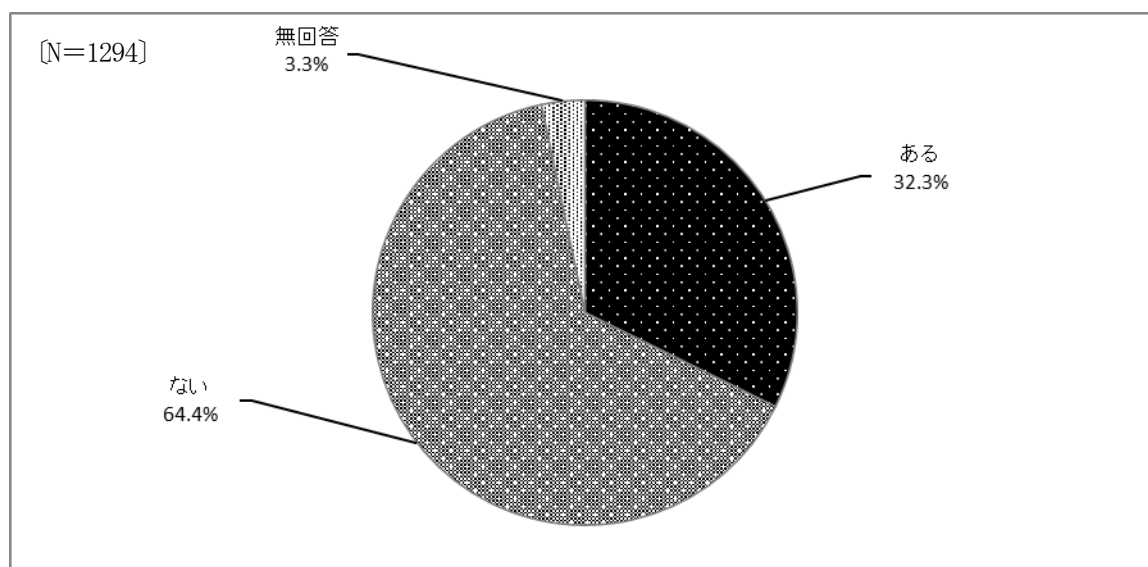
		実数 (人)	ある	ない	どちらともいえない	無回答
全体		1294	553	251	449	41
性別	男	569	233	130	185	21
	女	725	320	121	264	20
年代	18～19歳	30	15	5	10	0
	20～29歳	93	60	11	21	1
	30～39歳	169	92	23	52	2
	40～49歳	215	101	36	77	1
	50～59歳	201	80	47	71	3
	60～69歳	230	90	49	83	8
	70歳以上	356	115	80	135	26
地区	河北	407	171	82	140	14
	河南	171	75	30	65	1
	盛南	159	64	33	55	7
	厨川	290	126	52	101	11
	都南	228	105	42	75	6
	玉山	39	12	12	13	2

《テーマ4 地域の歴史・歴史遺産について》

問22 あなたは、お住まいの地域やその周辺で、守り受け継いでいくべきと思う文化財や歴史遺産（古い建物や石碑、お城、一里塚、水路やため池、工場や鉱山の跡など）はありますか。当てはまるもの1つに○を付けてください。

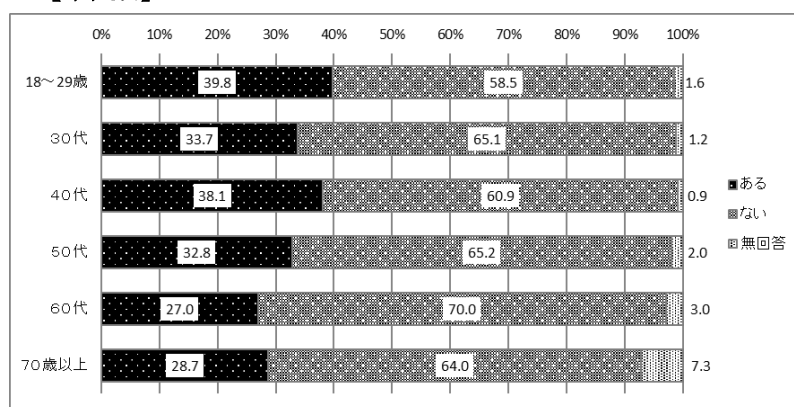
- 1 ある（具体的に： _____）
 2 ない

【全体】



「ある」の割合 32.3%に対し、「ない」の割合が 64.4%と大きく上回る結果となった。貴重な文化財や歴史遺産を将来に受け継いでいくことの必要性について、イベントや展示会等、様々な場面で周知していく必要がある。

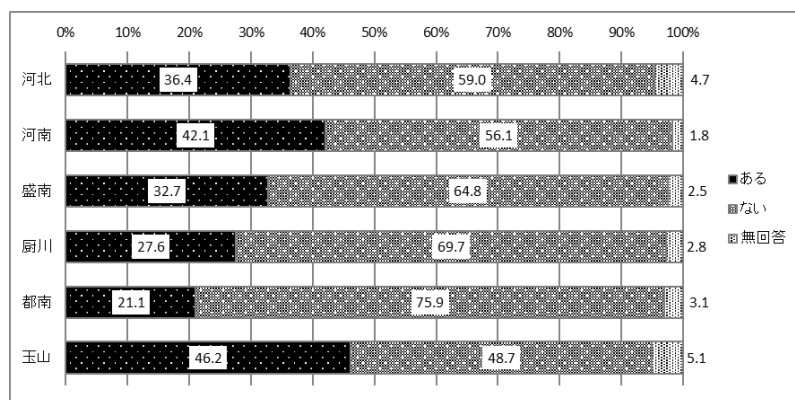
【年代別】



「ある」の割合は、18~29歳が 39.8%、40代が 38.1%、30代が 33.7%と続いており、地域に長く暮らしている方々よりも、若年層の方が文化財や歴史遺産に対する関心が深いことがうかがえる。

今後、10代、20代の世代が貴重な文化財や歴史遺産を活用し、残すことができる担い手となるよう、文化財や歴史遺産の情報とともに、活用や維持管理イベントへの参加機会を設けるとともに、維持のために必要な制度等を設けることが必要と思われる。

【地区別】



「ある」と回答した人の割合は、玉山地区が46.2%、河南地区が42.1%、河北地区が36.4%と続く。

それぞれの地域に貴重な文化財や歴史遺産は存在しているが、周知が図られていないこと、国や県の文化財として未指定であること、日ごろから活用が図られていないこと等から、地域に知られていないものと思われる。

それぞれの地域に所在する貴重な文化財や歴史遺産を普及・啓発する活動や、活用するイベント等を実施することが必要と思われる。

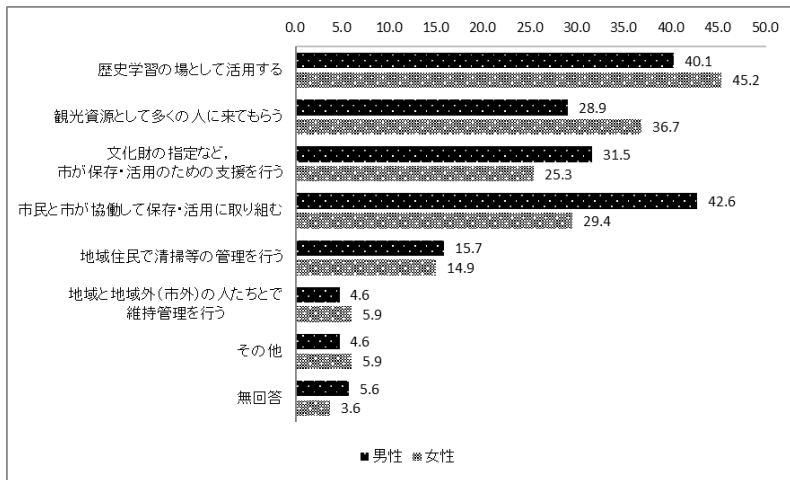
※「2 ある」の具体例が多かったもの

<p>【全地区で多かったもの】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・盛岡城跡関係（公園，石垣） ・岩手銀行赤レンガ館 <p>【河北地区】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一里塚 ・高松の池，高松公園 ・三ツ石神社 ・米内浄水場 <p>【河南地区】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大慈清水・清龍水 ・町家（鉦屋町，大慈寺） ・南昌荘 ・十六羅漢 	<p>【盛南地区】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・志波城古代公園 ・大宮神社 ・原敬記念館 <p>【厨川地区】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・盛岡ふれあい覆馬場プラザ ・一ノ倉邸 ・前九年の役遺構（厨川柵，安倍館） ・大館町遺跡 <p>【都南地区】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大ヶ生金山 <p>【玉山地区】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石川啄木記念館 ・啄木の歌碑
---	---

【性別、年代別、地区別の回答数】

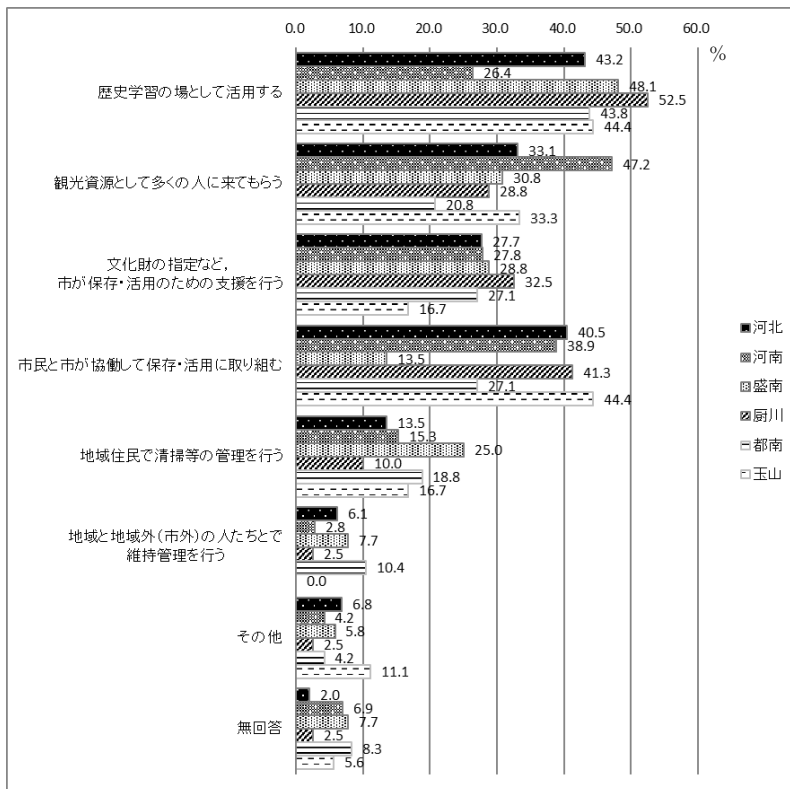
		実数 (人)	ある	ない	無回答
全体		1294	418	833	43
性別	男	569	197	360	12
	女	725	221	473	31
年代	18～19歳	30	12	18	0
	20～29歳	93	37	54	2
	30～39歳	169	57	110	2
	40～49歳	215	82	131	2
	50～59歳	201	66	131	4
	60～69歳	230	62	161	7
	70歳以上	356	102	228	26
地区	河北	407	148	240	19
	河南	171	72	96	3
	盛南	159	52	103	4
	厨川	290	80	202	8
	都南	228	48	173	7
	玉山	39	18	19	2

【性別】



「歴史学習の場として活用する」の割合が、女性45.2%に対し、男性が40.1%となっているほか、「観光資源として多くの人に来てもらう」では女性の割合が36.7%と、男性の28.9%を上回っている一方、「市民と市が協働して保存・活用に取り組む」では男性が42.6%と女性の29.4%を大きく上回っている。文化財や歴史遺産の利活用に対する期待や役割分担について、学校との関わりや地域・自治会等とのかわり方により、考えの差があるものと思われる。

【地区別】



市を代表する歴史的建造物やまちなみが残る河南地区では、「観光資源として多くの人に来てもらう」の割合が最も高く、観光客を誘引するための活用方策に取り組む必要があると思われる。

一方、その他の地区では「歴史学習の場として活用する」の割合が最も高くなっており、学習の場として活用されることが期待されている。

また、河北・厨川・玉山地区では、「市民と市が協働して保存・活用に取り組む」必要があると考えている方が多いことから、地域の文化財や歴史遺産を保護、利活用する方策を地域の方々と一緒に考える機会やイベントを検討する必要があると思われる。

【全体を通じて】

文化財や歴史遺産の保存・活用については、市民のニーズ、地域の要望をくみ取りながら取組を進めることにより、行政だけではなく市民との協働による維持管理や活用が推進できるものと考えられる。

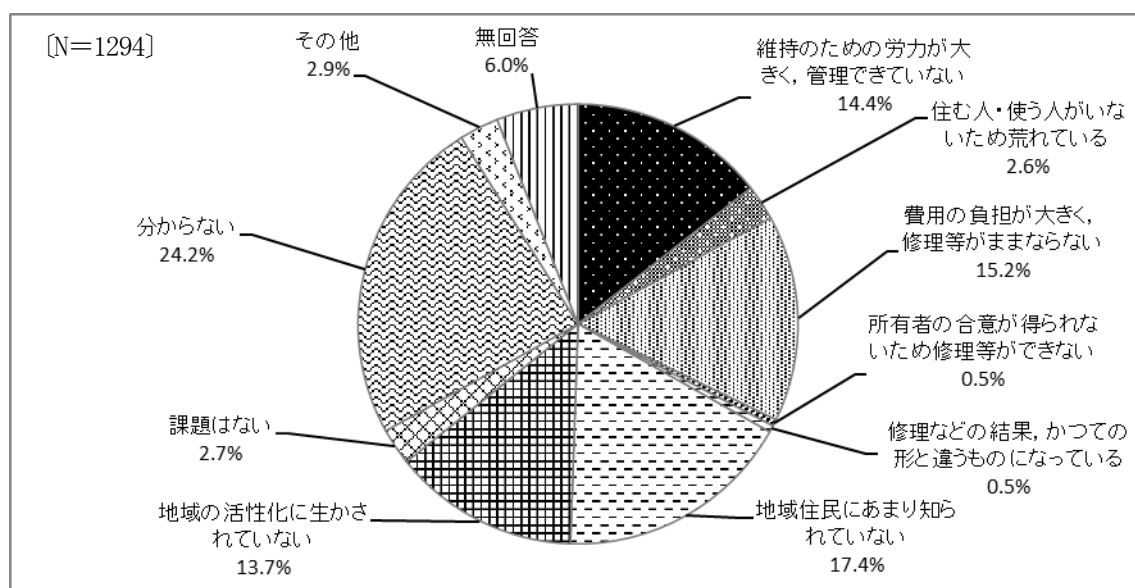
【性別、年代別、地区別の回答数】

		実数（人）	歴史学習の場として活用する	観光資源として多くの人に来てもらう	文化財の指定など、市が保存・活用のための支援を行う	市民と市が協働して保存・活用に取り組む	地域住民で清掃等の管理を行う	地域と地域外（市外）の人たちとで維持管理を行う	その他	無回答
全体		418	179	138	118	149	64	22	22	19
性別	男	197	79	57	62	84	31	9	9	11
	女	221	100	81	56	65	33	13	13	8
年代	18～19歳	12	6	2	3	7	0	0	1	1
	20～29歳	37	14	19	7	11	2	2	3	3
	30～39歳	57	23	26	17	18	12	3	1	1
	40～49歳	82	35	25	16	28	13	6	6	7
	50～59歳	66	27	20	23	30	7	1	3	2
	60～69歳	62	25	14	23	22	11	5	4	1
	70歳以上	102	49	32	29	33	19	5	4	4
地区	河北	148	64	49	41	60	20	9	10	3
	河南	72	19	34	20	28	11	2	3	5
	盛南	52	25	16	15	7	13	4	3	4
	厨川	80	42	23	26	33	8	2	2	2
	都南	48	21	10	13	13	9	5	2	4
	玉山	18	8	6	3	8	3	0	2	1

問 24 あなたは、文化財や歴史遺産を残すための課題はどのようなことだと思いますか。当てはまるもの1つに○を付けてください。

- 1 維持のための労力が大きく、管理できていない
- 2 住む人・使う人がいないため荒れている
- 3 費用の負担が大きく、修理等がままならない
- 4 所有者の合意が得られないため修理等ができない
- 5 修理などの結果、かつての形と違うものになっている
- 6 地域住民にあまり知られていない
- 7 地域の活性化に生かされていない
- 8 課題はない
- 9 分からない
- 10 その他 ()

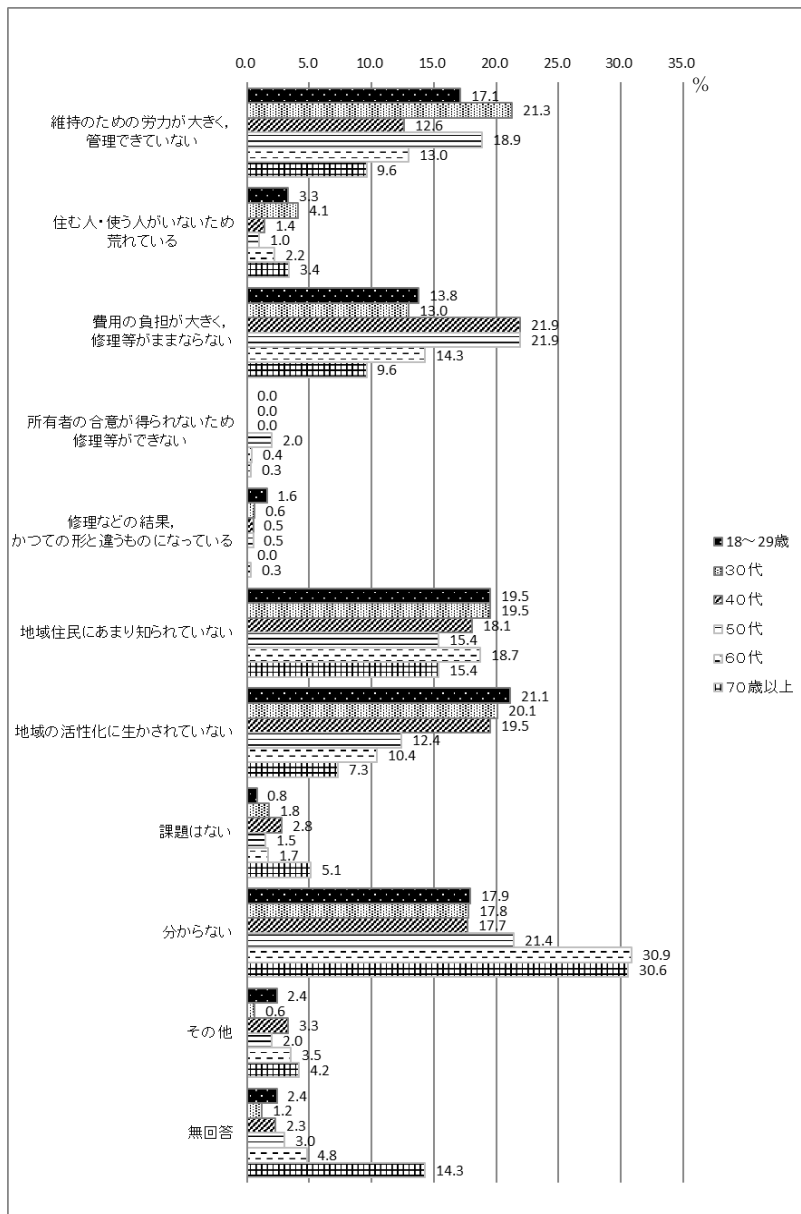
【全体】



文化財や歴史遺産を残すための方策について「分からない」の割合が24.2%と最も高く、次いで「地域住民にあまり知られていない」が17.4%、「費用の負担が大きく、修理等がままならない」が15.2%、「維持のための労力が大きく、管理できていない」が14.4%と続いている。

このことから、地域に貴重な文化財・歴史遺産が所在していることの周知や、建造物等を修理するための支援制度や助成制度の充実が求められているものと思われる。

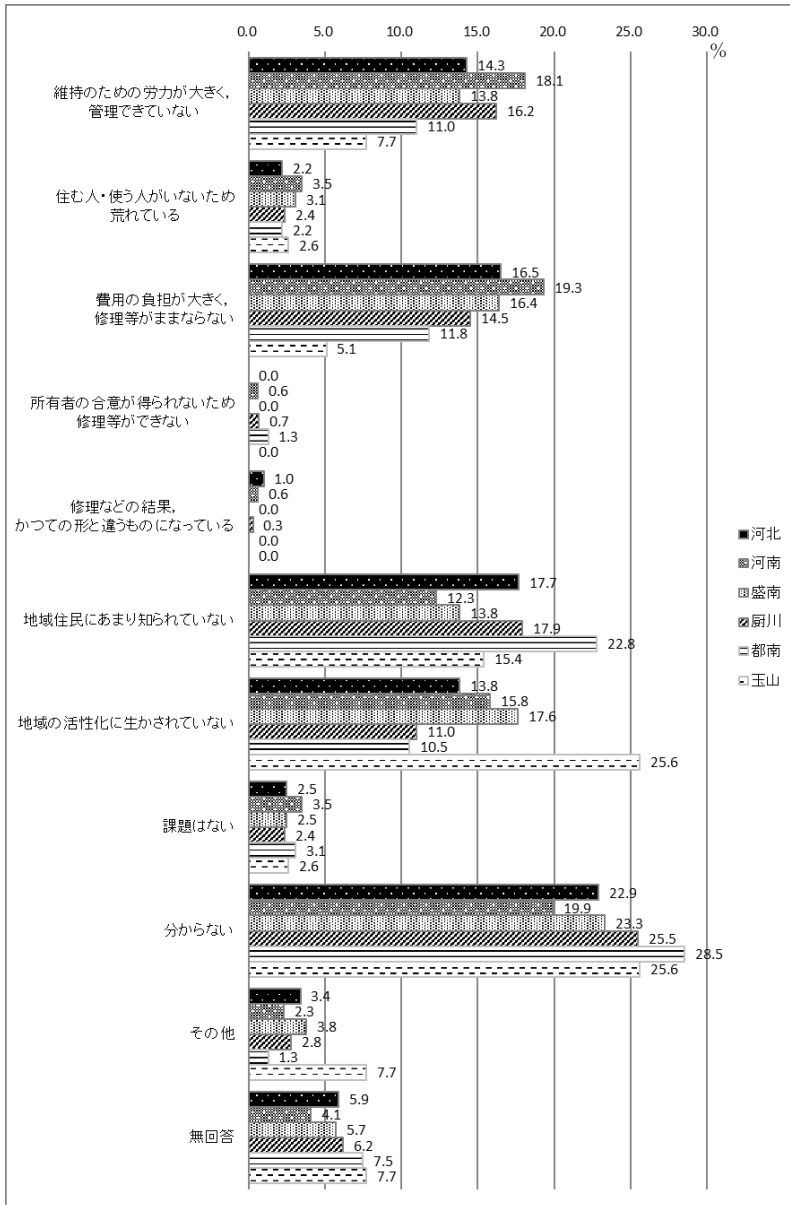
【年代別】



平均して「地域住民にあまり知られていない」の割合が高いが、40代までの世代では「地域の活性化に生かされていない」の割合が高く、30代で「維持のための労力が大きく、管理できていない」、40代から60代が「費用の負担が大きく、修理等がままならない」の割合が高くなっている。

世代を通して、地域の貴重な文化財や歴史遺産の周知を図ることが必要と感じているほか、30代以上の世代は、地域に所在する建造物等の維持管理の大変さを実感しているものと思われる。

【地区別】



河北・厨川・都南地区では、「地域住民にあまり知られていない」の割合が高く、地域に所在する文化財・歴史遺産の周知や普及啓発が特に求められているものと思われる。

また、河南・盛南地区では「費用の負担が大きく、修理等がままならない」の割合が高く、地域に貴重な歴史遺産が所在していることは認識しているが、保存のための支援措置等を充実する必要があるものと思われる。

玉山地区については、「地域の活性化に生かされていない」の割合が高いことから、イベント等の開催を通して、歴史遺産を地域の活性化に結び付けていく取組が求められていると思われる。

【全体を通じて】

地域によって文化財や歴史遺産の維持管理、活用に関するニーズが異なっていることから、地域に所在する文化財の種類や分布状況を踏まえた施策の推進が必要であると思われる。

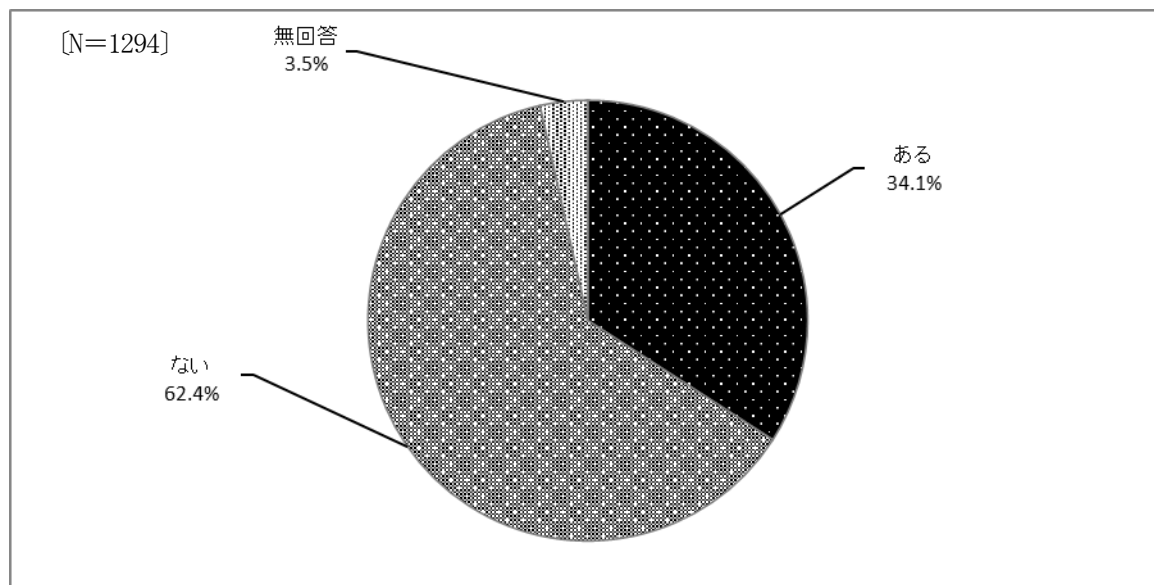
【性別、年代別、地区別の回答数】

		実数（人）	維持のための労力が大きく、管理できていない	住む人・使う人がいないため荒れている	費用の負担が大きく、修理等がままならない	所有者の合意が得られないため修理等ができない	修理などの結果、かつての形と違うものになっている	地域住民にあまり知られていない	地域の活性化に生かされていない	課題はない	分からない	その他	無回答
全体		1294	186	33	197	6	6	225	177	35	313	38	78
性別	男	569	78	16	100	5	5	109	80	13	111	22	30
	女	725	108	17	97	1	1	116	97	22	202	16	48
年代	18～19歳	30	2	2	4	0	2	6	9	0	4	1	0
	20～29歳	93	19	2	13	0	0	18	17	1	18	2	3
	30～39歳	169	36	7	22	0	1	33	34	3	30	1	2
	40～49歳	215	27	3	47	0	1	39	42	6	38	7	5
	50～59歳	201	38	2	44	4	1	31	25	3	43	4	6
	60～69歳	230	30	5	33	1	0	43	24	4	71	8	11
	70歳以上	356	34	12	34	1	1	55	26	18	109	15	51
地区	河北	407	58	9	67	0	4	72	56	10	93	14	24
	河南	171	31	6	33	1	1	21	27	6	34	4	7
	盛南	159	22	5	26	0	0	22	28	4	37	6	9
	厨川	290	47	7	42	2	1	52	32	7	74	8	18
	都南	228	25	5	27	3	0	52	24	7	65	3	17
	玉山	39	3	1	2	0	0	6	10	1	10	3	3

問 25 あなたは、お住まいの地域で行われている歴史や文化に関わる行事やお祭りについて、伝えていき
たいと考えている行事やお祭りはありますか。当てはまるもの1つに○を付けてください。

- 1 ある（具体的に： _____)
2 ない

【全体】

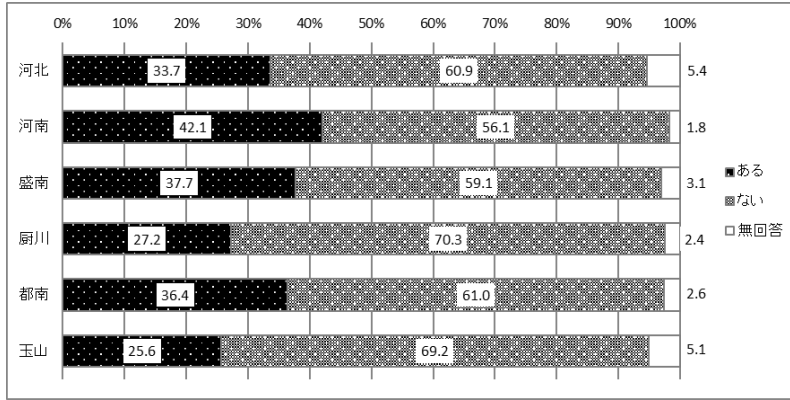


「ある」の割合が34.1%に対し、「ない」が62.4%と大きく上回る結果となった。
地域に残る行事や祭りを将来に受け継いでいくことの必要性について、地域ごとの文化財を紹介するパ
ンフレットの作成、ホームページの充実、文化財めぐりツアーや地域ごとにワークショップを開催する等、
様々な場面で周知していく必要がある。

※「2 ある」の具体例が多かったもの

- ・さんさ踊り
- ・各地域の伝統さんさ
- ・チャグチャグ馬コ
- ・舟っこ流し
- ・盛岡秋まつり、山車
- ・各地域の神社でのお祭り

【地区別】

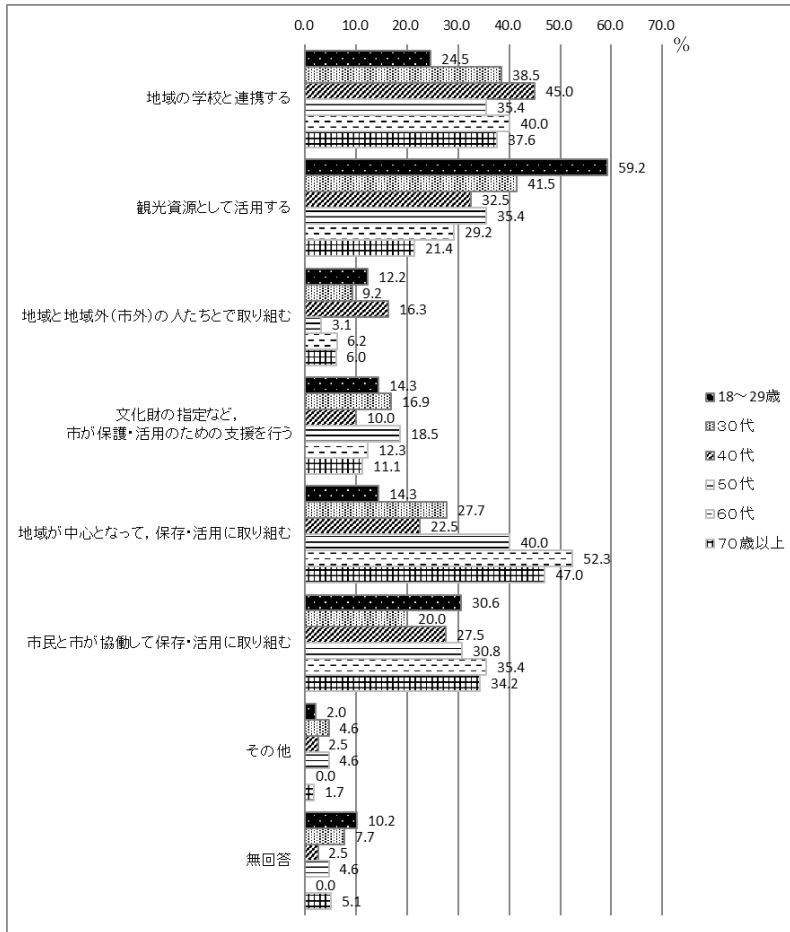


伝えていきたい地域の行事や祭りがあると回答した比率が比較的高かった地区のうち、河南地区(42.1%)は、古くから伝わる行事や祭りが継続的に行われている地区であり、盛南(37.7%)・都南地区(36.4%)はさんさ踊りの活動が盛んな地区であることが回答に反映されたものと考えられる。

【性別、年代別、地区別の回答数】

		実数 (人)	ある	ない	無回答
全体		1294	441	808	45
性別	男	569	174	380	15
	女	725	267	428	30
年代	18～19歳	30	13	17	0
	20～29歳	93	36	56	1
	30～39歳	169	65	102	2
	40～49歳	215	80	133	2
	50～59歳	201	65	134	2
	60～69歳	230	65	158	7
	70歳以上	356	117	208	31
地区	河北	407	137	248	22
	河南	171	72	96	3
	盛南	159	60	94	5
	厨川	290	79	204	7
	都南	228	83	139	6
	玉山	39	10	27	2

【年代別】



30代までは「観光資源として活用する」の割合が高く、さんさ踊りやチャグチャグ馬コ、盛岡八幡宮の例大祭のように、他地域からの交流を呼び込むことができるような取組が必要と考えているものと思われる。

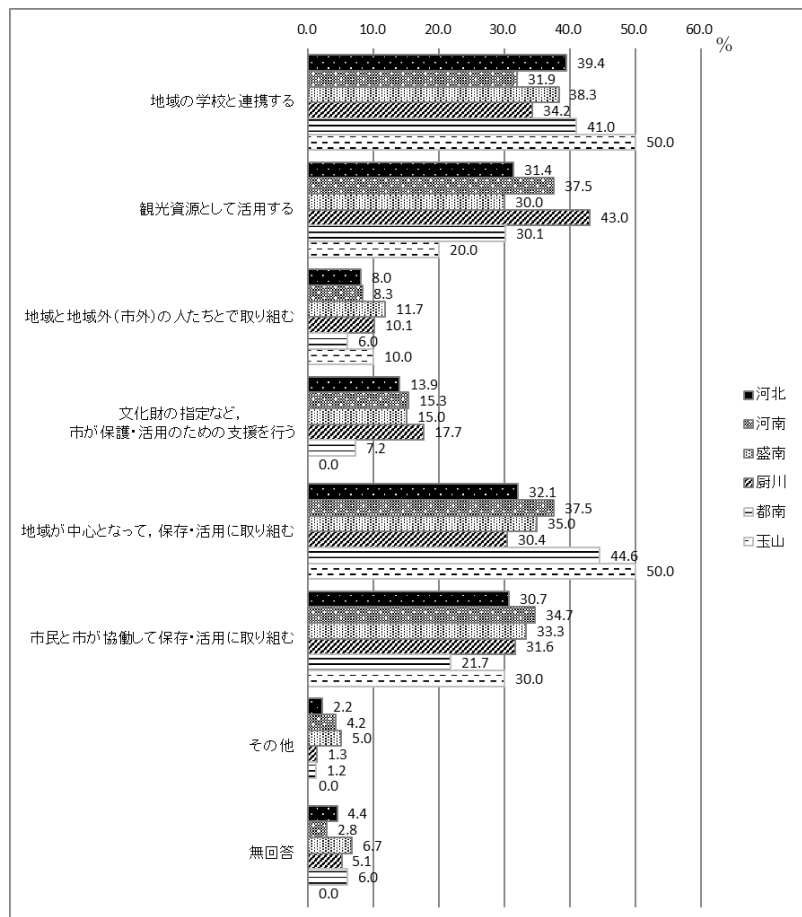
40代は「地域の学校と連携する」の割合が高く、地域に伝わる郷土芸能等を学校のイベント(運動会・文化祭)で披露する機会を通して、伝承活動につなげていくことを期待しているものと思われる。

50代以上では「地域が中心となって、保存・活用に取り組む」の割合が高く、地域の行事や祭りの継承活動は、地域コミュニティの維持を図る上で重要な取組と捉えられているものと思われる。

【地区別】

河南・厨川地区では、「観光資源として活用する」の割合が高く、他の地域では「地域の学校と連携する」の回答率が高かった。

河南・厨川地区は、さんさ踊りやチャグチャグ馬コ、山車行事等が行われている地区であることから、既存の祭りや行事を継続させていく取組が求められているものと思われる。また、他の地域については、学校との連携とともに、「地域が中心となって、保存・活用に取り組む」の割合も高かったことから、地域と学校の連携や地域コミュニティにおける継承活動への支援等が求められているものと思われる。



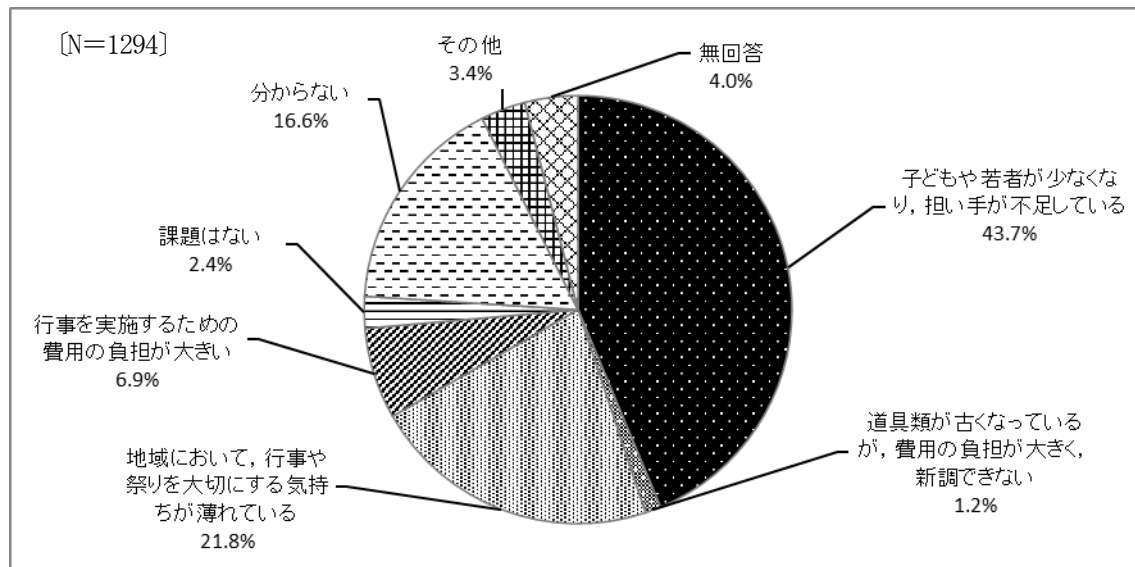
【性別，年代別，地区別の回答数】

		実数（人）	地域の学校と連携する	観光資源として活用する	地域と地域外（市外）の人たちとで取り組む	文化財の指定など，市が保護・活用のための支援を行う	地域が中心となって，保存・活用に取り組む	市民と市が協働して保存・活用に取り組む	その他	無回答
全体		441	166	149	38	59	158	133	11	21
性別	男	174	63	64	21	22	69	52	3	4
	女	267	103	85	17	37	89	81	8	17
年代	18～19歳	13	1	7	2	3	4	4	0	2
	20～29歳	36	11	22	4	4	3	11	1	3
	30～39歳	65	25	27	6	11	18	13	3	5
	40～49歳	80	36	26	13	8	18	22	2	2
	50～59歳	65	23	23	2	12	26	20	3	3
	60～69歳	65	26	19	4	8	34	23	0	0
	70歳以上	117	44	25	7	13	55	40	2	6
地区	河北	137	54	43	11	19	44	42	3	6
	河南	72	23	27	6	11	27	25	3	2
	盛南	60	23	18	7	9	21	20	3	4
	厨川	79	27	34	8	14	24	25	1	4
	都南	83	34	25	5	6	37	18	1	5
	玉山	10	5	2	1	0	5	3	0	0

問 27 あなたは、行事やお祭りを継続させるための課題はどのようなことだと思いますか。当てはまるものの1つに○を付けてください。

- 1 子どもや若者が少なくなり、担い手が不足している
- 2 道具類が古くなっているが、費用の負担が大きく、新調できない
- 3 地域において、行事や祭りを大切にしている気持ちが薄れている
- 4 行事を実施するための費用の負担が大きい
- 5 課題はない
- 6 分からない
- 7 その他 ()

【全体】



行事や祭りを継続させるための課題について「子どもや若者が少なくなり、担い手が不足している」が43.7%と高く、次いで「地域において、行事や祭りを大切にしている気持ちが薄れている」が21.8%と続いており、少子高齢化と地域コミュニティの維持に対する危機感が表れているものと考えられる。

また、全世代、全地域を通じて「子どもや若者が少なくなり、担い手が不足している」の割合が高いことから、共通の問題意識を持っているものと思われる。市として、興味を持った人が農作業や地域の行事・祭りに参加できる体験型のイベントの開催や、学生の郷土芸能サークル等の協力を得て、休止又は休止のおそれがある団体から踊りを教えてもらう機会を設ける等といった取組を検討したい。

【性別、年代別、地区別の回答数】

		実数 (人)	子どもや若者が少なくなり、担い手が不足している	新調できない 道具類が古くなっているが、費用の負担が大きく、	地域において、行事や祭りを大切にしている する気持ちが薄	行事を実施するための費用の負担が大きい	課題はない	分からない	その他	無回答
全体		1294	565	16	282	89	31	215	44	52
性別	男	569	246	12	131	42	17	83	18	20
	女	725	319	4	151	47	14	132	26	32
年代	18～19歳	30	17	1	5	1	0	5	1	0
	20～29歳	93	53	1	12	3	4	16	3	1
	30～39歳	169	75	5	35	13	4	27	8	2
	40～49歳	215	96	3	47	13	7	38	8	3
	50～59歳	201	97	1	42	24	1	22	12	2
	60～69歳	230	87	1	61	16	6	46	4	9
	70歳以上	356	140	4	80	19	9	61	8	35
地区	河北	407	197	7	71	24	11	67	15	15
	河南	171	74	2	32	20	3	24	8	8
	盛南	159	66	2	35	9	5	30	5	7
	厨川	290	114	4	69	23	5	53	11	11
	都南	228	97	1	63	10	7	39	3	8
	玉山	39	17	0	12	3	0	2	2	3

令和2年度市民アンケート調査結果報告書
令和3年2月発行

〈発行・編集〉

盛岡市市長公室広聴広報課
〒020-8530 盛岡市内丸12番2号
電話 (019) 626-7517 (直通)

〈調査結果の考察担当〉

- ・市長公室広聴広報課
- ・総務部危機管理防災課
- ・保健所保健予防課
- ・教育委員会事務局歴史文化課

この報告書は再生紙を使用しています。